

## パート 6

### 社会との関係深化と推進機能の強化の状況



## 6 社会との関係深化と推進機能の強化の状況についての自由記述の主な論点

### 6-1 社会との関係の状況

本中項目に該当する自由記述は約 90 件存在した。非常に多様な意見が述べられており、まとまった論点を抽出するのは困難であったが、目立った論点として以下の 4 つの論点が抽出された。

**論点 6-1 人文・社会科学及び自然科学全般を俯瞰できる人材を養成し、両分野の連携を促進する環境をつくっていく必要がある。**

**論点 6-2 科学者と国民の両者が相互に理解しようとするのが大切である。**

**論点 6-3 研究者の社会との関わりについての認識は、分野や世代によっては不十分な場合があり、社会との関係を深める取組(情報発信等)が必要である。**

**論点 6-4 マスメディアや一般の市民の科学技術、サイエンスに関するリテラシーを高める必要がある。**

**論点 6-1 人文・社会科学及び自然科学全般を俯瞰できる人材を養成し、両分野の連携を促進する環境をつくっていく必要がある。(自由記述件数:7 件)**

- 政府は、ポピュリズム的な報道に左右されることなく、長期的視野に立った科学技術政策を示していく必要がある。理系・文系といった分離教育の弊害をなくし、人文・社会科学及び自然科学全般を俯瞰できる人材を養成し、両分野の連携を促進する環境をつくっていく必要がある。(大学,第 1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 研究者の社会リテラシーを学ぶ e-learning システムの普及によって、個別で捉えられていたリテラシーの共有化が行われるようになったと思います。ただし文系,理系の区分けの概念がかなり強く,文系を選択した場合,理系を選択した場合で取り組むべき課題が既に分けられてしまう状況が続いていると感じています。例えば 1 つの社会問題に取り組む資金を得る場合に複合メンバーでないと応募できないなど,融合するための仕組みや,文系,理系といったカテゴライズに留まらないワークショップの実施などを行うことで垣根を取り払えればと思っています。(大学,第 4G,工学,研究員・助教クラス,女性)

**論点 6-2 科学者と国民の両者が相互に理解しようとするのが大切である。(自由記述件数:4 件)**

- 研究者の社会リテラシーや科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題に関しては,現状では問題があることを認識はしていても,それを解決するための具体的手段を知らない,あるいは,関心があってもそれに取り組むだけの余裕が無いと云うのが現状だと思います。また,多様なステークホルダーが双方向で対話・協働することに関しては,研究者,国民,メディアの相互が互いに良く理解できるように努力することが必要だと思います。研究者側が一方的に『分かりやすく説明する』ことを求められても,分かりやすくすることにも限界がありますし,無理に分かりやすくしようとするれば,本質を見失う程度に単純化させざるを得なくなり,結果的に関係の深化は不可能になってしまうと思います。相互が理解使用する態度で望むことが大切だと思います。(大学,第 4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 多様な取り組みに直接に研究者がかかわることで,双方の理解は増すと思われる。一方でそのような取り組みは,若手研究者の研究時間に影響し,研究開発速度が低下することが懸念されるし,すでに起こっている。システムとしてステークホルダーとのインターフェスを整備する必要がある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

**論点 6-3 研究者の社会との関わりについての認識は、分野や世代によっては不十分な場合があり、社会との関係を深める取組(情報発信等)が必要である。(自由記述件数:5件)**

- 研究者の社会リテラシーに関しては、学術領域によって千差万別である。医学領域では多くの研究者が社会リテラシーを保有している一方、理学領域の研究者では欠落しているケースが散見される。現在、サイバー空間の活用に関して大きな技術革新とイノベーションが起ころうとしており、理学や工学の研究者には高い社会リテラシーが求められる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 研究者に対し自分と社会とのかかわり方を問うような取り組みは、近年活発になってきたと感じる。ただし、そのような取り組みは若手に偏重しており、40代、50代以上の研究者は自分のあり方を確立してしまっており、何も変わっていないとも感じる。よりはっきり言うと、研究職として仕事をしている上で、40代、50代以上の研究者らが社会リテラシーを欠いていると感じる場面が、多々ある。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
- 言うまでもなく大学等の研究は税金で支えられており、そこで作り出される科学技術イノベーションは企業との連携の産物であっても、十分に社会の理解を得るためのプロジェクトの紹介と成果のアピールは不可欠であり、市民やマスコミを取り込んだコンソーシアム形成などを推進すべきである。(大学,社長・学長等クラス,男性)

**論点 6-4 マスメディアや一般の市民の科学技術、サイエンスに関するリテラシーを高める必要がある。(自由記述件数:5件)**

- 大学、公的研究機関は、機会を捉えて、多様なステークホルダーに研究の意味、社会との結びつきを分かりやすく説明すべきである。特に、海外に比べ、TV に真面目なサイエンスやエンジニアリングを取り扱う番組が日本には少ない。このような状況を変えていかないと、子供達が、科学を目指すようにならないと考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 公的機関の研究においては、本来ステークホルダーは納税者であるが、彼らの意見形成に果たす役割はメディアが担ってため、実際上、ステークホルダーはメディアというのが現状だと思う。その強大な権力を持つメディアのクオリティは千差万別であり、科学的な考え方を全く有していない場合も多々ある。こういう状況を改善するためにはマスコミとの良好な関係を築く、もっと言ってしまうと、彼らに科学的な素養を身につけてもらう必要がある。これらを担当するのは広報であるが、どこの大学および研究機関も広報が貧弱だと感じる。広報強化を望む。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)

**(その他の自由記述)**

- 依然として、自然科学分野と人文・社会科学分野の隔たりが大きい。この状況は大学よりも社会において著しく、社会の自然科学リテラシーを高める取り組みを進める必要があると考える。一方、大学における研究者のリテラシーは、文理融合型の学部新設が相次いでいることに代表されるように、かなり改善されてきている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)

## 6-2 科学技術外交の状況

## 6-3 政策形成への助言の状況

## 6-4 司令塔機能等の状況

---

本中項目に該当する自由記述は約 100 件存在した。非常に多様な意見が述べられており、まとまった論点を抽出するのは困難であったが、目立った論点として以下の 2 つの論点が抽出された。

**論点 6-5 グローバルな知財戦略や技術・システムの展開が必要である。**

**論点 6-6 科学技術イノベーションと社会との関係進化と推進機能の強化を専門に行う役割の機関を設立すると良い。**

**論点 6-5 グローバルな知財戦略や技術・システムの展開が必要である。(自由記述件数:4 件)**

- グローバル化は遅れており、日本は今まで産業界がグローバル化を支えてきたが、社会を変えるようなイノベーションにはグローバルなニーズを取り込んだ国主導の研究開発が必要である。特に産業界では維持できないような海外への知的財産戦略は国が主導で考えないと、基礎研究のアイデアは日本で発案されたが、国がサポートしないため、海外で実用化されて実利は海外企業が得るパターンが多く見受けられ、日本の財産流出である。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 女性)
- 特定分野に絞り込まず、我が国が強みを持つ技術やシステムについては海外に対し、もっと積極的に PR をすべきと思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際する官民が一体の取組は、十分に行われているところもあります。ただし、どうしても民間企業主導になってしまうので、官が主導できる体制の構築が必要だと思います。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)

**論点 6-6 科学技術イノベーションと社会との関係進化と推進機能の強化を専門に行う役割の機関を設立すると良い。(自由記述件数:2 件)**

- 基礎科学の研究分野において、初期の段階において、社会との関りを重視しなくても良い分野もあると思います。科学技術イノベーションの社会との関係進化と推進機能の強化を専門に行う役割の機関を設立すると良いと思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制については、日本学術会議や各種審議会、学会等が行う科学的な助言は専門的で、やや抽象的なところもあるため、現実的な政府には助言の真意が伝わりにくいと思います。政府と学会等の間に、助言の内容を分かりやすく伝えることと、具体的に何を行えばいいかについての助言できる機関があれば、有効に機能するのではないかと思います。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)

**(その他の自由記述)**

- 科学技術の重要性についての発言は政治の各面で行われているが、実際の進展、海外との競争力などを見ると、もっとそれを現実に反映していく必要があると考える。また、政策判断でも、原発やワクチン問題のように、根拠を重んじた合理性よりも感情を重視してしまうことが多く、現実の改善を阻害していることが多いと思う。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)

Q601. 研究者の社会リテラシー (研究と社会との関わりについての認識)を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

		2016年度調査													各年の指数					指数の変化				
		分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第4四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6	6	1	2	3	4	5	6										
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	108	82	376	547	431	216	45	1,697	4.5	3.2	4.5	6.0	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大学等	92	63	309	457	376	182	41	1,428	4.6	3.3	4.6	6.1	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	公的研究機関	16	19	67	90	55	34	4	269	4.2	2.9	4.2	5.8	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	インハウス/オンプレグループ	86	48	204	177	88	18	2	537	3.4	2.4	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大企業	36	3	71	57	27	4	0	162	3.5	2.5	3.5	4.7	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中小企業・大学発ベンチャー	29	21	42	40	17	3	1	124	3.1	2.1	3.3	4.6	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	中小企業	21	7	20	20	6	2	0	55	3.1	2.2	3.4	4.5	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大学発ベンチャー	8	14	22	20	11	1	1	69	3.0	1.9	3.2	4.6	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	橋渡し等	21	24	91	80	44	11	1	251	3.4	2.4	3.6	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	男性	164	119	522	658	471	207	44	2,021	4.3	2.9	4.3	5.8	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
職位	女性	30	11	58	66	48	27	3	213	4.3	2.9	4.3	5.9	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	社長・役員、学長等クラス	35	37	121	128	60	14	1	361	3.4	2.4	3.6	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	部長、教授クラス	66	46	220	256	176	75	12	785	4.1	2.8	4.2	5.6	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	主任研究員、准教授クラス	48	26	138	196	156	86	23	625	4.7	3.2	4.6	6.2	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
雇用形態	研究員、助教クラス	37	20	85	136	125	58	11	435	4.7	3.4	4.7	6.1	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	8	1	16	8	2	1	0	28	3.0	2.3	3.0	4.2	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
業務内容別	任期あり	64	35	217	248	177	67	14	758	4.2	2.9	4.2	5.6	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	任期なし	130	95	363	476	342	167	33	1,476	4.3	2.9	4.3	5.8	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関を 対象とする	学長・機関長等	2	4	33	45	28	10	0	120	4.1	3.0	4.2	5.5	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	現場研究者	101	66	316	457	362	178	43	1,422	4.6	3.2	4.5	6.0	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大規模PIの研究責任者	5	12	27	45	41	28	2	155	4.7	3.3	4.8	6.3	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学グループ	国立大学等	63	48	220	323	274	132	35	1,032	4.6	3.3	4.6	6.1	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	私立大学	3	6	23	26	20	9	3	87	4.3	2.8	4.3	5.9	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	私立大学	26	9	66	108	83	41	3	310	4.6	3.4	4.6	6.0	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第1グループ	17	15	49	66	74	29	10	243	4.7	3.2	4.8	6.2	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関を 対象とする	第2グループ	25	14	66	112	87	51	9	339	4.7	3.4	4.7	6.2	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第3グループ	20	14	81	135	84	32	9	355	4.4	3.2	4.4	5.7	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第4グループ	29	19	102	132	118	61	61	441	4.6	3.2	4.6	6.1	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	理学	20	6	45	54	53	24	6	188	4.7	3.2	4.7	6.1	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動 あり(過去3年間)	工学	29	17	71	128	108	75	18	417	5.0	3.5	4.9	6.5	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	農学	8	8	35	56	46	15	5	165	4.5	3.3	4.5	5.9	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	保健	30	20	106	137	99	32	6	400	4.2	2.9	4.2	5.6	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	なし(過去3年間)	61	40	172	153	78	15	2	460	3.4	2.4	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動 あり(過去3年間)	なし	25	8	32	24	10	3	0	77	3.2	2.3	3.3	4.6	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	なし(過去3年間)	38	21	85	75	27	5	0	213	3.2	2.3	3.3	4.5	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関の 知財活用(企業等) なし(分からない)	なし(分からない)	40	12	64	49	27	6	1	159	3.4	2.4	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	全回答者(属性無回答を含む)	194	130	580	724	519	234	47	2,234	4.3	2.9	4.3	5.8	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものと、指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q602. 科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査										各年の指数					指数の変化									
	分からない		6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
	1	2	3	4	5	6																			
大学・公的研究機関グループ	206	175	471	520	279	128	26	1,599	3.7	2.5	3.8	5.2	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学等	172	137	389	436	250	112	24	1,348	3.8	2.5	3.9	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公的研究機関	34	38	82	84	29	16	2	251	3.3	2.2	3.4	4.7	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インバウンジョン係職グループ	98	69	232	154	54	13	3	525	2.9	2.1	3.1	4.3	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	35	12	73	57	17	4	0	163	3.1	2.3	3.3	4.4	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	36	14	54	35	10	3	1	117	2.9	2.1	3.0	4.3	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	25	5	23	16	5	2	0	51	3.1	2.2	3.2	4.4	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	11	9	31	19	5	1	1	66	2.8	2.1	3.0	4.2	2.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	27	43	105	62	27	6	2	245	2.8	2.0	2.9	4.3	2.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	255	225	632	615	301	130	27	1,930	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	49	19	71	59	32	11	2	194	3.5	2.4	3.5	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
社長・役員・学長等クラス	40	40	143	120	45	7	1	356	3.1	2.2	3.3	4.5	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部長・教授クラス	86	94	260	235	117	50	9	765	3.5	2.3	3.5	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主任研究員・准教授クラス	86	64	171	191	94	53	14	587	3.8	2.5	3.8	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
研究員・助教クラス	83	41	116	123	73	31	5	389	3.8	2.5	3.8	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	9	5	13	5	4	0	0	27	2.6	1.9	2.8	4.1	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期あり	102	86	246	225	118	37	8	720	3.4	2.3	3.5	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期なし	202	158	457	449	215	104	21	1,404	3.6	2.4	3.7	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学長・機関長等	3	13	35	47	20	4	0	119	3.4	2.5	3.7	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
現場研究者	191	144	399	420	236	108	25	1,332	3.8	2.5	3.8	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大規模PIの研究責任者	12	18	37	53	23	16	1	148	3.8	2.5	3.9	5.2	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国立大学等	123	99	280	318	176	80	19	972	3.8	2.5	3.9	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公立大学	12	12	22	27	9	5	3	78	3.5	2.2	3.6	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
私立大学	37	26	87	92	65	27	2	299	3.9	2.6	4.0	5.5	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第1グループ	36	23	60	74	38	23	6	224	4.0	2.6	4.0	5.5	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第2グループ	51	22	93	108	57	26	7	313	4.0	2.7	4.0	5.3	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第3グループ	38	46	95	119	54	19	4	337	3.5	2.3	3.7	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第4グループ	43	40	126	123	91	41	6	427	3.9	2.5	4.0	5.6	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
理学	41	16	54	49	27	18	3	167	3.8	2.5	3.8	5.4	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
工学	53	44	91	116	86	43	13	393	4.2	2.7	4.2	5.8	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農学	14	14	48	56	27	11	3	159	3.8	2.6	3.9	5.1	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保健	50	41	128	124	62	22	3	380	3.5	2.4	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あり(過去3年間)	71	60	197	134	44	12	3	450	2.9	2.1	3.1	4.3	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	27	9	35	30	10	1	0	75	2.9	2.1	3.0	4.4	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学・公的研究機関の 知財活用(企業等)	32	23	108	61	23	4	0	219	2.9	2.2	3.0	4.2	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし/分からない	53	19	60	43	19	4	1	146	3.1	2.2	3.2	4.5	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	304	244	703	674	333	141	29	2,124	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q603. 科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査											各年の指数					指数の変化						
	分からない		6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第1四 分点	中央値	第3四 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年
	1	2	3	4	5	6																	
大学・公的研究機関グループ	220	163	493	529	268	110	22	1,585	3.7	2.5	3.8	5.0	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学等	192	132	403	449	236	88	20	1,328	3.7	2.5	3.8	5.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公的研究機関	28	31	90	80	32	22	2	257	3.5	2.3	3.5	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イノベーション俯瞰グループ	69	76	246	148	68	15	1	554	2.9	2.1	3.0	4.4	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	23	14	83	47	25	6	0	175	3.2	2.3	3.1	4.5	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	24	26	54	31	15	2	1	129	2.7	1.9	2.9	4.2	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	14	13	25	14	9	1	0	62	2.7	1.8	2.9	4.3	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	10	13	29	17	6	1	1	67	2.7	1.9	2.8	4.1	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	22	36	109	70	28	7	0	250	2.9	2.1	3.0	4.3	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	240	221	670	609	313	111	21	1,945	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	49	18	69	68	23	14	2	194	3.5	2.4	3.6	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
社長・役員、学長等クラス	36	40	147	124	38	10	1	360	3.1	2.2	3.3	4.4	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部長、教授クラス	72	93	274	232	125	48	7	779	3.4	2.3	3.5	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主任研究員、准教授クラス	89	63	184	184	95	47	11	584	3.7	2.4	3.7	5.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
研究員、助教クラス	85	38	119	130	76	20	4	387	3.7	2.5	3.8	5.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	7	5	15	7	2	0	0	29	2.4	1.9	2.7	3.8	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期あり	98	75	260	235	111	37	6	724	3.4	2.3	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期なし	191	164	479	442	225	88	17	1,415	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学長・機関長等	3	7	44	48	13	7	0	119	3.5	2.5	3.6	4.7	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
現場研究者	205	143	407	428	232	87	21	1,318	3.7	2.4	3.8	5.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大規模PIの研究責任者	12	13	42	53	23	16	1	148	3.9	2.6	3.9	5.2	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国立大学等	140	92	287	316	175	68	17	955	3.8	2.5	3.9	5.2	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公立大学	10	13	29	21	11	6	0	80	3.2	2.1	3.2	4.8	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
私立大学	42	27	88	112	50	14	3	294	3.6	2.5	3.8	4.9	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第1グループ	35	22	63	71	44	18	7	225	3.9	2.6	4.0	5.5	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第2グループ	54	21	94	106	58	26	5	310	3.9	2.7	4.0	5.3	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第3グループ	48	44	91	120	57	13	2	327	3.4	2.4	3.7	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第4グループ	50	40	144	138	67	28	3	420	3.6	2.4	3.6	4.9	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
理学	44	21	54	43	31	12	3	164	3.6	2.3	3.6	5.3	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
工学	51	41	107	126	81	33	7	395	3.9	2.6	4.0	5.5	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農学	22	18	47	55	22	6	3	151	3.5	2.4	3.7	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保健	61	35	124	130	60	17	3	369	3.5	2.4	3.7	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	48	63	207	130	59	13	1	473	3.0	2.1	3.1	4.4	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	21	13	39	18	9	2	0	81	2.7	2.0	2.8	4.1	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学・公的研究機関の 知財活用(企業等)	26	29	101	60	28	7	0	225	3.0	2.1	3.0	4.4	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし/分からない	36	21	77	40	21	3	1	163	2.9	2.1	3.0	4.3	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	289	239	739	677	336	125	23	2,139	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。



Q604. 我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査														各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第4四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
		1	2	3	4	5	6																	
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	3	4	42	43	24	5	1	119	3.8	2.7	3.9	5.0	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-		
	大学等	3	4	30	38	23	4	1	100	3.9	2.8	4.0	5.2	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-		
	公的研究機関	0	0	12	5	1	1	0	19	3.1	2.3	3.0	4.1	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-		
	イノベーション拠頭グループ	30	78	207	164	113	30	1	593	3.4	2.2	3.5	5.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
	大企業	6	15	71	55	42	8	1	192	3.6	2.4	3.6	5.1	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-		
	中小企業・大学発ベンチャー	14	27	44	38	21	9	0	139	3.2	2.0	3.3	4.8	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-		
	中小企業	11	10	19	21	9	6	0	65	3.4	2.2	3.6	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
	大学発ベンチャー	3	17	25	17	12	3	0	74	2.9	1.8	3.0	4.7	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-		
	橋渡し等	10	36	92	71	50	13	0	262	3.3	2.2	3.4	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-		
	男性	29	76	234	200	133	32	1	676	3.4	2.3	3.6	5.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
	女性	4	6	15	7	4	3	1	36	3.2	2.0	3.0	4.8	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-		
	社長・役員・学長等クラス	13	41	130	117	65	12	2	367	3.4	2.3	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
部長・教授クラス	14	29	86	64	59	17	0	255	3.6	2.3	3.7	5.3	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-			
主任研究員・准教授クラス	1	10	16	17	7	4	0	54	3.2	2.0	3.4	4.8	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-			
研究員・助教クラス	1	0	3	1	2	1	0	7	4.3	2.6	4.2	6.0	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-			
その他	4	2	14	8	4	1	0	29	3.2	2.3	3.2	4.5	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-			
任期あり	11	28	113	90	69	13	2	315	3.6	2.4	3.6	5.1	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-			
任期なし	22	54	136	117	68	22	0	397	3.3	2.2	3.5	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-			
学長・機関長等	3	4	42	43	24	5	1	119	3.8	2.7	3.9	5.0	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-			
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
あり(過去3年間)	24	63	171	139	97	27	0	497	3.4	2.3	3.5	5.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-			
なし	6	15	36	25	16	3	1	96	3.1	2.1	3.2	4.7	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-			
あり(過去3年間)	10	32	86	65	47	10	1	241	3.3	2.2	3.4	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-			
なし(分からない)	12	24	72	47	34	10	0	187	3.3	2.2	3.3	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-			
全回答者(属性無回答を含む)	33	82	249	207	137	35	2	712	3.4	2.3	3.5	5.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-			

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものを、指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q605. 我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	7	34	46	24	4	0	115	3.7	2.7	3.9	5.0	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学等	6	3	27	40	23	4	97	4.0	3.0	4.1	5.2	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公的研究機関	1	4	7	6	1	0	18	2.4	1.8	2.9	4.0	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イノベーション・ベンチャー	52	56	196	197	91	28	571	3.5	2.4	3.6	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	13	12	64	71	28	3	185	3.6	2.6	3.7	4.8	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	18	21	43	47	17	7	135	3.2	2.2	3.5	4.7	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	11	8	22	22	8	5	65	3.4	2.3	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	7	13	21	25	9	2	70	3.0	2.0	3.4	4.6	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	21	23	89	79	46	14	251	3.5	2.4	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性	52	57	217	231	113	32	653	3.6	2.5	3.7	4.9	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
女性	7	6	13	12	2	0	33	2.6	2.0	3.0	4.1	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
社長・役員、学長等クラス	26	32	125	129	56	12	354	3.4	2.4	3.6	4.7	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
部長、教授クラス	26	26	71	85	44	14	243	3.7	2.5	3.8	5.0	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
主任研究員、准教授クラス	3	4	18	17	10	3	52	3.6	2.5	3.7	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
研究員、助教クラス	1	0	2	2	2	1	7	4.6	3.1	4.6	6.0	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	3	1	14	10	3	2	30	3.4	2.4	3.3	4.6	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
任期あり	23	25	100	106	61	9	303	3.6	2.5	3.8	4.9	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
任期なし	36	38	130	137	54	23	383	3.5	2.4	3.6	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
学長・機関長等	7	7	34	46	24	4	115	3.7	2.7	3.9	5.0	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	41	44	172	163	76	22	480	3.5	2.4	3.6	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	11	12	24	34	15	6	91	3.5	2.4	3.8	4.7	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	15	24	85	86	30	10	236	3.3	2.4	3.5	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし(分からない)	22	17	60	61	31	6	177	3.5	2.4	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	59	63	230	243	115	32	686	3.5	2.5	3.7	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q606. インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	8	38	44	21	7	0	114	3.8	2.7	3.9	5.0	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大学等	7	29	40	19	6	0	96	4.0	2.9	4.0	5.1	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	公的研究機関	1	9	4	2	1	0	18	3.0	2.1	3.0	4.4	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	イノベーション俯瞰グループ	102	53	203	157	82	26	0	521	3.3	2.3	3.4	4.8	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大企業	32	8	68	52	28	10	0	166	3.6	2.5	3.6	4.9	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中小企業・大学発ベンチャー	35	16	44	38	15	5	0	118	3.1	2.2	3.3	4.6	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中小企業	23	7	18	16	8	4	0	53	3.4	2.2	3.5	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大学発ベンチャー	12	9	26	22	7	1	0	65	2.9	2.1	3.2	4.4	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
	橋渡し等	35	29	91	67	39	11	0	237	3.3	2.2	3.3	4.8	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	男性	105	48	228	192	101	31	0	600	3.5	2.4	3.5	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
職位	女性	5	9	13	9	2	2	0	35	2.6	1.6	2.8	4.1	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	社長・役員、学長等クラス	55	30	124	107	54	10	0	325	3.3	2.4	3.5	4.7	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	部長、教授クラス	41	19	84	71	40	14	0	228	3.5	2.4	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
	主任研究員、准教授クラス	8	7	18	13	5	4	0	47	3.2	2.1	3.2	4.6	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	研究員、助教クラス	2	0	2	1	1	2	0	6	5.0	2.9	5.0	7.1	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	4	1	13	9	3	3	0	29	3.6	2.5	3.4	4.8	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	任期あり	42	16	108	95	54	11	0	284	3.5	2.5	3.6	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
	任期なし	68	41	133	106	49	22	0	351	3.3	2.3	3.4	4.7	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	学長・機関長等	8	4	38	44	21	7	0	114	3.8	2.7	3.9	5.0	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
業務内容別	現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学部局分野	工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	あり(過去3年間)	85	46	171	130	71	18	0	436	3.3	2.3	4.7	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	なし	17	7	32	27	11	8	0	85	3.6	2.4	3.5	4.9	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	あり(過去3年間)	36	18	89	67	33	8	0	215	3.3	2.3	3.3	4.7	3.3	-	-	-	-	-	-	-		
	なし(分からない)	47	14	59	49	19	11	0	152	3.4	2.3	3.4	4.7	3.4	-	-	-	-	-	-	-		
	全回答者(属性無回答を含む)	110	57	241	201	103	33	0	635	3.4	2.4	3.5	4.8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q607. 我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査												各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	4	8	35	44	28	3	0	118	3.7	2.7	3.9	5.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学等	4	7	28	37	24	3	0	99	3.8	2.7	4.0	5.2	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公的研究機関	0	1	7	7	4	0	0	19	3.5	2.6	3.7	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イノベーション・ベンチャーグループ	101	58	178	159	93	33	1	522	3.5	2.3	3.6	5.0	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	34	12	55	55	35	7	0	164	3.6	2.5	3.8	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	34	16	45	31	18	8	0	119	3.3	2.2	3.3	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	21	9	22	12	8	4	0	55	3.1	2.0	3.1	4.8	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	13	7	23	19	10	4	1	64	3.5	2.3	3.5	4.9	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	33	30	78	73	40	18	0	239	3.5	2.3	3.6	5.0	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	96	62	203	195	114	34	1	609	3.5	2.4	3.7	5.0	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	9	4	10	8	7	2	0	31	3.5	2.3	3.6	5.3	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
社長・役員、学長等クラス	47	23	114	114	67	14	1	333	3.6	2.5	3.8	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部長、教授クラス	37	33	75	68	40	16	0	232	3.4	2.2	3.5	5.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主任研究員、准教授クラス	11	7	14	11	9	3	0	44	3.4	2.1	3.5	5.2	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
研究員、助教クラス	1	0	3	2	1	1	0	7	4.0	2.6	3.8	5.4	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	9	3	7	8	4	2	0	24	3.6	2.4	3.8	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期あり	41	21	89	105	57	13	0	285	3.7	2.6	3.8	5.0	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期なし	64	45	124	98	64	23	1	355	3.4	2.3	3.5	5.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学長・機関長等	4	8	35	44	28	3	0	118	3.7	2.7	3.9	5.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あり(過去3年間)	82	46	143	142	79	28	1	439	3.6	2.4	3.7	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	19	12	35	17	14	5	0	83	3.2	2.1	3.1	4.8	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あり(過去3年間)	40	18	69	71	40	13	0	211	3.6	2.5	3.8	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし(分からない)	47	18	59	44	25	5	1	152	3.3	2.2	3.3	4.7	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	105	66	213	203	121	36	1	640	3.5	2.4	3.7	5.0	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q608. 基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

回答者グループ	2016年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第4四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	11	7	37	32	33	1	1	111	3.8	2.6	3.9	5.4	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大学等	9	5	29	28	31	0	1	94	3.9	2.7	4.1	5.5	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
	公的研究機関	2	2	8	4	2	1	0	17	3.1	2.1	3.0	4.5	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	イノベーション俯瞰グループ	164	44	128	151	102	32	2	459	3.8	2.6	4.0	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大企業	52	4	42	55	31	14	0	146	4.1	3.0	4.2	5.5	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中小企業・大学発ベンチャー	56	13	34	28	17	4	1	97	3.3	2.2	3.4	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中小企業	37	5	16	9	6	3	0	39	3.3	2.2	3.2	4.9	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大学発ベンチャー	19	8	18	19	11	1	1	58	3.4	2.3	3.6	4.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	橋渡し等	56	27	52	68	54	14	1	216	3.8	2.5	4.0	5.5	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	男性	159	47	159	175	131	32	2	546	3.8	2.6	4.0	5.4	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	女性	16	4	6	8	4	1	1	24	3.6	2.2	3.8	5.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	社長・役員、学長等クラス	79	22	96	100	71	10	2	301	3.7	2.6	3.9	5.2	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
	部長、教授クラス	63	22	53	70	46	15	0	206	3.8	2.6	4.0	5.3	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	主任研究員、准教授クラス	19	4	7	9	10	5	1	36	4.4	2.9	4.6	6.2	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	研究員、助教クラス	2	0	2	0	3	1	0	6	5.0	2.9	5.6	6.4	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	12	3	7	4	5	2	0	21	3.6	2.2	3.5	5.6	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	任期あり	70	15	78	77	75	9	2	256	3.9	2.7	4.1	5.5	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
	任期なし	105	36	87	106	60	24	1	314	3.7	2.5	3.9	5.2	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
	学長・機関長等	11	7	37	32	33	1	1	111	3.8	2.6	3.9	5.4	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
業務内容別	現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学部局分野	工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	あり(過去3年間)	130	39	99	134	89	28	2	391	3.9	2.7	4.0	5.4	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
	なし	34	5	29	17	13	4	0	68	3.5	2.4	3.3	5.0	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
	あり(過去3年間)	70	9	56	63	40	13	0	181	3.9	2.7	4.0	5.3	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
	なし(分からない)	65	15	36	43	27	12	1	134	3.8	2.5	4.0	5.4	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	全回答者(属性無回答を含む)	175	51	165	183	135	33	3	570	3.8	2.6	4.0	5.4	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q609. 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化の状況について、ご意見をご自由にお書きください

- 知的好奇心より、何の役にたつかという視点で評価されるのは研究者としては若干違和感がある。ただし、国からの補助で運営している組織である事、また社会からの期待が強い状況では、大学としても積極的に社会貢献を進めていくのが必要である。現状では、AI やスポーツ科学先端研究拠点、SDGなどの取り組みを積極的に進めていくことで、大学に期待された役割を十分に果たせると考える。
- 大学の価値は「役に立つ」かどうかとは別のところにあるということを広く社会で理解してもらい取り組みが必要と感じる。○我が国は世界でも独特の文化と魅力を持っている。我が国の独自性の強みをより深く理解するためにグローバルな視点を強化することは必要である。○国際基準構築、産業創造、経済面での安全保障などを考慮すると、産学官連携やイノベーション政策については、アジアを中心に国際連携のあり方を検討した方がよい。その場合、わが国での学位取得者をコアにしたネットワークを有効に利用すべき。○多くの会員を有する学会が、さらに科学的助言を行なえる仕組みや体制が必要と考える。○政府に対する科学的助言について、自然科学だけでなく、経済学・政治学など社会科学の知見を政策形成に活用する仕組みが充実されるべきである。○総合科学技術・イノベーション会議が科学技術イノベーションの社会との関係深化の牽引役を担うという構想であれば、更なる機能強化が必要。特に情報収集能力の強化と、より広い領域から、一層若い世代の有識者を招いて意見を集約するための一層活発な活動が期待される。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
- 1
- 
- マスコミが誤った情報を発信している場合がある。マスコミに登場する専門家と称する研究者には研究者コミュニティからの評価が低い人材も多い。大学も考えなければならないが、専門家集団である学協会が社会にむけて情報発信することが重要。この点では、国や文科省の学協会への支援は不足している。大学等の研究者がボランティアとして学協会活動し、社会と関係を深化させようとしているが、支援が必要。国や文科省は、学協会の重要性を認識して欲しい。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 2
- 
- 理系が勉強して文系にリーチアウトするのは勿論ですが、文系の方も、科学の基礎知識をつけて、お互いにリーチアウトしていただかないと、文理融合は不可能であると思います。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 3
- 
- 大学の研究成果を性急に社会へのインパクトだけで評価するのはいかがなものかなと思う。大学は新たな知の創造であり、数十年後、50年後に価値が認められるような大きなものを出すべきである。小泉信三の「すぐに役に立つものは、すぐに役にたたなくなる」という言葉を十分に認識すべきである。日本はこのままで行くと数十年後にはノーベル賞が全く出ない大学に成り果てる事を杞憂する。また研究者が自ら様々な人と交流して新たなアイデアを得るのは当たり前のものであり、強制的に円卓会議を開いても全く意味のあるものになるとは思えない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 4
- 
- 本来ならば、科学技術イノベーションと社会との関係性は科学技術に携わる人々とりわけ若手にとっては重要である。しかしながら、任期制にさらされている若手にこのような視点を持ってと言っても自分の身の回りのことで手一杯である。何とかならないものかと日々苦悶している。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 5
- 
- 近年、文理融合がとかく必要とされるが、必要性があるようには思われない。具体的な成功例を示してほしいと思う。おそらく、国民、メディアは今すぐにでも使える技術ばかりに関心を持ち、研究者とは温度差があるように思われる。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 6
- 
- 7 会議の議論は実践が伴っていない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 7
- 
- 8 議論をせず、空気を読む、日本特有の文化を前提として、新たな方法論を創造することが必要である。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 8
- 
- 9 文系と理系の相互作用はほぼ皆無です。ここにイノベーションがあるかもしれませんが。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 9
- 
1. 大型研究施設や研究所などは学会の際などに一般市民参加のシンポジウムを開催し啓蒙活動と同時に意見を聞いているが、良い活動だと思います。2. 大型予算公募の際などに、恣意的なパブリックコメントが組織的に集められるのは好ましくありません。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 10
- 
- 科学技術イノベーションの社会との関係深化については、大学においてだいぶ良くなってきていると思われる。米国シリコンバレーを成功モデルと考えるのは多くの場合(分野)で間違っている。非米国的で世界共通性の高いやり方があるはずであり、わが国はそれを牽引する立場にあることに疑う余地はない。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 11
- 
- 政府は、ポピュリズム的な報道に左右されること無く、長期的視野に立った科学技術政策を示していく必要がある。理系・文系といった分離教育の弊害をなくし、人文・社会科学及び自然科学全般を俯瞰できる人材を養成し、両分野の連携を促進する環境をつくっていく必要がある。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 12
- 
- 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化の状況については、個人的な努力に依存しているので全体的にはそうひどくはないが、組織的な取り組みはずいぶん遅れていると感じる(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 13
- 
- そもそも専門分野の細分化が著しく、さらに各研究者が己の研究+管理業務であまりに忙しいため、他分野との連携(とくに研究と直接関係がない人文系と)は組織的にはほとんど行われていない(行えない)のが現状ではないでしょうか。いまの日本でのこのような活動は興味と時間のある個人研究者が担っているように思えます(し、それで機能しているのであればそれでいいのかもしれません)。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 14
- 
- 社会を意識すると、研究の鋭さが鈍るのではないかと。特に若い研究者は社会のことなど気にせず、自分の研究能力向上のことに集中した方がよいのではないだろうかとも思える。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 15

- 16 社会的なインパクトにこだわり過ぎると、捏造が増える。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 17 文系理系に歩み寄るインセンティブがない。チャレンジングなエリアであり,論文にならない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 18 社会との関係進化への対応は,かなり進んできたと思う。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 19 現在の科学は複雑になり,中身そのものを一般の市民が直接理解することは難しい。アメリカの科学ジャーナリストは科学者顔負けの本をかけるが,科学をよく理解している人でないと,政策形成のような複雑な議論はできないと考える。”それは何の役に立つのですか?”と聞かれて,本質をはずさずとわかりやすくを両立できる説明ができなければならない。興味からアイデアをつくり,実装し,社会にインテグレーションすることをひとまとめに考えてしまうことも難しい。公的な研究者として,社会に説明責任があることは理解しているが,それを真摯にとらえると,上記の質問はすべて分からないと答えざるをえなかった。大学としては,科学と市民の接点をつなく試みはされており,一般市民とのワークショップも多くやっているが,質問はもっと複雑なことを問われていると考えた。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 20 科学技術イノベーションが全てを解決するわけではない。ことについて,科学技術を進める側と社会(ステイクホルダー)の双方の思索が足りないと思う。社会を持続可能にするために科学技術イノベーションが必要であるという一面的な指向に,危惧を感じる。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 21 学生教育を主体とする大学教員にとって,昨今の状況は過大な任務を付加する形になっているので,雑務も膨大になり,長い目で見たときには優れた研究成果や優れた人材を育てる機能を失いつつあると思います。限られたスタッフと予算では実行不能の状態に陥りつつあります。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 22 研究者側からの発信の機会を増えてはいるが,それらを受け入れる国民の割合が少ないように思われる。より多くの国民が日常的に科学技術に関心を持つように,研究者からの発信方法,児童,生徒の教育には,メディアの伝達の方法,頻度を改善すべき。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 23 大学と社会との間にあるギャップは形成しがちであるが,オープンキャンパスや市民講座・講義,webによるサービスの拡充により,開かれた大学,研究所の実現が図られるべきである。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 24 「科学技術イノベーション」という言葉自体がおかしい。科学,技術,イノベーションはそれぞれ異なる意味を持つはず。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 25 日本学術会議が,果たすべき役割と思いますが,残念ながら現状の学術会議は,予算不足であり,かつ会員の人選においてもトップダウン,仲良しクラブ的に決められており,機能していないと思います。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 26 私はハーバード大学で博士を取りました。日本の研究者は,欧米と比べて社会リテラシーなどのレベルが低いです。それは,優秀な人材が博士後期課程に進まないからだだと思います。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 27 森里海連環学という新たな学問領域をもうけ,社会への研究の理解を進めるための努力をしています。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 28 このあたりも十分なされている,過度にならないほうがよい。研究の質の確保を研究者自身が進めるべき(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 29 社会の広報活動が海外のように進んでいない。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 30 科学コミュニケーションの公的な仕組みを促進すべき。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 31 科学技術を発展させる為には,社会への波及効果などを検討する上でも文系部局との連携が必要だと考えられるが,文系部局の必要性などの議論からこれら部局の縮小傾向にあり,このことは倫理教育などの歴史的背景や国家間の考え方の違いなど,理系部局では把握できない知識が失われつつあるのではないかと心配している。科研費などでも,理系部局と文系部局の連携で申請するような領域を新設すれば,このような問題の一部が解決できるかもしれない。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 32 知識人や専門家と呼ばれる方々は,本当に国立大学の現場を知っているのでしょうか。提言はすべて余計なもので,全然改革になっていません。国立大学の運営交付金を削減前の水準にもどしていただくこと,大学改革,入試改革などはしないでいただきたいこと,無理な提言など行わないでいただきたいことを切に願います。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 33 総論として,そもそも科学(Science)と技術(Technology)を一つの単語として扱う我が国の考え方を改める必要があると考える。両者は全く異なる概念であり,Scienceは例え社会貢献や人類への貢献に繋がらなくても尊重し発展させておくべきである。iPS細胞やオートファジーがノーベル賞として評価されたのは,再生医学への応用でもがんや認知症への応用(Technology)でもなく,単純に新たな生命現象を解明した点(Science)のみである。我々Scientistの啓蒙活動の不足やマスコミ(文系?)のレベルの低さが原因とはいえ,Scienceに対する国民の理解の低さは我が国の大きな問題であると考えられる。小中学校の教育の中で,ScienceとTechnologyの違いとそれぞれの重要性を理解させる仕組みも必要であると思われる。各論の一つとして,近未来の医療において,ゲノム情報の理解と活用は必須である。ゲノム情報取扱のための法整備は,先進国の中で日本が最も遅れており,その整備が急務であると思われる。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 34 あくまでも自然科学分野についてであるが,初等教育の段階で丸覚えではない,より実践的な教育をすることが第一段階かと思う。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 35 科学技術イノベーションの社会との関係深化の重要性は理解するが、これを推進することを大学教員や公的機関の研究者ではない。大学教員、研究者のマルチタスクの解消のためにも、これらを進める専門職員を養成すべきである。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 36 この分野は、まだまだ不十分な点が多いというのが正直な感想です。私ども自身も、しっかりと対応していかなければならないと考えております。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 37 表面的なアピールにとどまっている印象を受ける。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 38 一部の科学研究領域(例;宇宙開発,iPS細胞を用いた臨床応用)には強化がなされているが、それ以外の研究については極めて不十分である。既知および世界的に認められた研究に対する強化に偏るのではなく、将来的に新しく認められることを目指す研究開発を推進する必要がある。こういったサポートは企業や財団による研究費支援などの方がより力を入れているように思われ、また上記の一部研究領域に含まれない分野の研究者もこういった外部資金を頼りにしているのが現状である。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,女性)
- 39 CSTIIは財源の確保ができていない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 40 審議会や委員会の役割と責任の所在が不明確に思われる。それらから派生した政策のPDCAサイクルを実施すべきではないか。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 41 メディア先行の議論で、十分な議論をおこなう場が足りないように感じる。またおこなわれていても、一部の分野に限られているのではないか。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 42 ステークホルダー会議は毎年開催しているが、必ずしも科学技術イノベーションと社会との関係について特化したものではなく、ステークホルダーの興味も科学技術イノベーションが占める割合はそれほど高くないと思える。人文・社会科学及び自然科学の連携については、大いに促進すべきと考え、今後に期待したい。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 43 評論家のような先生方が多く、政権の方針におもねる御用学者が円卓会議などに出席するので、違和感がある。特に、評論家なので、自己発言に責任を持たないことは、原発事故をはじめ、白日の下に明らかになったので、自己発言に責任を持てる人物の登用をお願いしたい。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 44 問4/5でコメントを既に記したが、本内容は大学のミッションであり、国民みながそう思っている。これは文科省が大学教育に強制的に課す内容であると思う。(大学,第2G,その他,男性)
- 45 現状は極めて貧困だと思う。科学技術イノベーションを達成するためには、新しい着想を産み出す人材の育成が不可欠である。即ち、人の成長に応じた小中高校・大学・大学院・社会の間の連携と循環が必要だと考える。科学一般に関する社会への発信では、マスコミの取組は広がって来ているが、まだ不十分である。博物館や科学館などの学術機関の整備を通して、科学への一般社会からの関心と理解を広げることも必要である。これら自体が多様なステークホルダーとの双方向性の実現と言える。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 46 理系研究者の社会リテラシーの低さも問題かも知れないが、社会や世論を動かすマスコミや政治家の科学リテラシーの低さこそが問題と思う。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 47 それ以前に科学技術イノベーションの価値を見出せない教授の意識改革の方が重要である。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 48 社会的なインパクトの大きな科学技術、現在では特にAI分野については、人文・社会学分野との対話を質・量とも十分確保しながら進展させる必要がある。AIの進展は現在ある職種の何割かを無効化し、新たな職種を創造するといわれる。しかし市井の人にとっては自分の職が無くなるのは悪質なストレスにしかならず、あまりにも急激に事が進めば科学技術のみならず社会の指導層/エリート層全般に対する信任を失わせ、社会の安定を損なう恐れがある。科学技術と生活様式の関わりや、さらに科学技術の進展を享受しないという選択肢をとった場合に引き受けなければならない社会的リスクなどについて、幅広い議論がなされながら物事が進んでいく必要がある。また、日本の財政の悪化に伴い国の研究費は厳しく制限され、科学政策的な重点化から漏れた多くの分野は衰退を余儀なくされる厳しい状況にある。日本の科学技術レベルの維持・向上に関わる費用を誰が負担するべきかという「そもそも論」的な部分の問い直しも避けられない。このような状況である一方、日本の国民の科学技術に対する心象は、「大事であることは分かっている。でも難しいことはどうせ聞いても良く分からないから専門の人たちでよく頼む。(自分たちの日常生活に大きな顔をしてしゃしゃり出てくるのは控えて欲しいし、そうならもらっては困る。)ノーベル賞受賞とか、海外の大型事業受注とか、景気の良い話をたまにニュースで聞かせてくれれば十分。」といった所のように思う。大学が象牙の塔の引き籠もりように言われるが、国民の側も研究者的な思想や価値観と交わり合うことを決して望んではいなかった。ある意味、政治に対する無関心と状況は似ている。社会との関係を深化させるというのは、この「壁」を打ち破るという意味合いがある。まずは、兎にも角にも科学技術の世界の広報・広告を大々的・継続的に行えるような人的・財政的措置を取って見てはどうか。研究機関のプレスリリースの内容が「○○○ニュース・テクノロジー」などWebニュースに掲載され、興味ある人は情報を得やすい環境になってきてはいるが、まだ足りない。人々の日常の生活圏に入っていくことが大事だと思う。例えば、電車の吊り広告やテレビビジョンに科学技術ニュースや科学技術イベント広告を日常的に掲載することができれば、科学技術に対する社会の認知の拡大に役立つと思われる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 49 本来、科学研究そのものは、可能な限りタブーを無くして、自由に行われるものと考えられるが(もちろん、技術の社会への実装は違うが)、基礎研究においても、社会との関係を重視しすぎるあまり、多くの制約が生じている。特に生命科学や原子力などは、論理的考えより感情を優先する風潮が近年とみに見られ、自由な研究が難しい。このような社会との関係という制約を取り払ってこそ、新しいイノベーションが出て来るものと考え。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 50 回答者の所属する○○○○研究院(教育組織では○○○○学院)では比較的上記視点をその行動原理においているように思う。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)



- 51 我が国の次世代産業創造に向けた、大学研究者と企業開発者をより強固に結び付ける取り組みが望まれる。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 52 これらの質問に対する積極的な動きはあろうかと思うが、研究現場に広く浸透していないように思われる。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 53 こうした点は、一昔前と比較すると、教員や学生の意識改革も含めて大きく改善されているように感じる。時間と手間を要するものがあるが、重要な業務の一環であると考えている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 54 現実の社会では、マスメディアの影響力が非常に大きいと感じます。丁寧なあるいは多面的な取材を行ってもらうような働きかけが必須に思います。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 55 公共政策大学院においては、法学・経済学と工学が連携して、文系や理系の枠にとられない公共政策に真に必要な学問領域の体系化を行っており、市民参画型の公開講義・討論会が行われている。教育では、自然科学分野と人文・社会科学分野等の「壁」の打破を行うための、Project Based Learningの導入などが行われて来ているが、社会実装での協働は完全な同調が出来ているとはいえ、不十分といえる。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 56 報道などとの連携を高めることが重要(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,女性)
- 57 これは研究者にもとめてるのですか？ 本当ならこんなことどうでもよいぐらい、研究にのめり込まなければならない。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 58 科学技術の社会実装に関する倫理的課題等については、研究者に対する倫理教育からなされるものであり、人文・社会科学および自然科学の連携という観点とは独立であると思う。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 59 研究者が国民への発信を行うことも重要だが、最適な頻度もあるのではないかと。予算ごとに・組織ごとに、シンポジウムなどが開催されすぎている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 60 これらを取り組んでいるエビデンスのための取り組みが増え、本質的に重要なことはほとんど強化されていないと感じます。この点も、まず現状の問題点の抽出が不十分と考えます。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 61 応用的な研究では研究と社会との関わりを意識することも重要であるが、基礎研究では、社会との関わりを一旦は忘れて研究を進めることも重要である。基礎的な研究の段階では、その研究が社会からの要請に応えられる研究かどうかは判別できないため、社会との関わりを意識することに意味はない。むしろ、研究時点では学術的に興味深いだけの基礎研究を進める方が、将来的に応用研究などに使われやすくなり、社会の役に立つ研究となる。当然のことであるが、「非人道的な研究を行わない」といった倫理的な教育は必要である。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 62 研究はチャレンジで失敗はつきものであり、それも成果であるという認識の共有は不十分だと思われます。特に、後に検証した結果として前の成果が否定されたりすることに対する不寛容な雰囲気が醸成されていることに危機感を感じます。また、マスコミ各社が同醸成を助長する傾向にあることも危険視しています。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 63 研究者と社会をつなぐサイエンスコミュニケーターの育成強化も必要である。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 64 基本的に社会の要請に研究者が応えるパターンばかりで、研究者の得意分野や技術を踏まえた上での折衝とかどれくらい出来ているのだろうか。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 65 そもそも、「リテラシー」などのわかりにくい言葉を平然と使用する感覚が理解できない。もっと、普通の言葉で情報共有をする社会を作りませんか？(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 66 私の立場からだと、よく見えないことが多く、認識できていないことが多いです。情報不足を感じます。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 67 業績主義がはびこって来っており、大学での社会リテラシーを向上する取組はますます必要になっている。(大学,第2G,農学,社長・学長等クラス,男性)
- 68 一般国民に研究を伝える主要なメディアのレベルが非常に低いことが大きな問題だと感じます。多くの国民は充分レベルが高く、きちんとした内容を伝えてほしいにもかかわらず、多くのメディアは研究者の卑近な内容しか伝えようとしない。研究者からメディアに転身するような人材が出てくる必要があると感じています。これはと別ですが、本アンケートの質問内容に関して、なぜ、カタカナ英語を優先的に使用するのかわかりません。「多様な利害関係者(研究者,国民,メディア等)」「研究と社会との関わりについての研究者の認識」「科学技術革新」と言えばもっとすんなりわかるはず。それともカタカナ英語にすることで、日本語とは異なる意味合いを醸し出そうとしているのでしょうか？(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 69 基礎研究=科学技術イノベーションとの直結、との考えは捨てるべきであろう。小さな研究の積み重ねこそが、科学技術イノベーションに繋がる、との認識が必要であると思う。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 70 民間からの登用,自由な発想を有する人材の登用,許容が必要である。人材を根本的に見直す必要があるのでは。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 71 この点は全く不十分だと思います。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)

- 72 大規模な学会などで社会と研究との連携を深めるための一般向け講座なども開かれるようになり、以前よりはオープンになりつつあると思うが、それでもまだまだ一般の人への浸透は十分とは言えず、税金を使った研究に対する意義の説明責任は十分果たせていないと思う。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 73 広く社会の問題を認識しその解決に果敢に取り組む研究者を増やすには、大学や大学院に在籍している時から社会・科学リテラシーの向上を図る教育が必要。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 74 ここで取り上げられている科学研究と社会との関係深化では、個々のプレイヤーが狭い観測範囲に基づいてそれぞれの意見を主張するという不毛な結果に終わることを避けるために、前提となる考え方について理解を深めることが重要である。対話を行うとしても、それは多分にお互いが学びを深めるような教育的な場からスタートする方が良い。円卓会議等の開催が直ちに画期的なアウトプットにつながるという期待もあるが、人材育成を含めた長期的、継続的な取り組みが必要である。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 75 マスコミの悪影響を感じます。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 76 以前と比較すると研究者が社会における立ち位置について認識する機会が増えている。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 77 人文・社会科学と自然科学の間の溝は依然として深い。互いに互いの知識が不足していることに加え、日本の人文・社会科学が世界的に見てレベルが低いことも原因の1つであると感じる。日本の人文・社会科学はただの輸入学問であった時代が長く、現在も大部分のように見える。政策提言をできるレベルだとは思えない。人文・社会科学の学生をどんどん海外の大学に送りこんで教養を身につけさせるのが良いと思う。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 78 政府の政策が浸透していないため、多様な政策を形成し、科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化に繋げてほしい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 79 社会との関係深化と推進機能の強化に関する国のより明確な数値目標とその推進のためのガイドラインが必要である。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 80 “日本生産性本部 - 日米産業別労働生産性水準比較”<http://activity.jpc-net.jp/detail/01.data/activity001494.html>第二次産業だけが国際競争力を持っている。一方、教育やイノベーション関連も含めたサービス産業に科学技術が入っていない。例えば大学の経営はローテクで行われている。教育技術も50年前からほとんど進歩しておらず、基本は紙と鉛筆で進められている。ICTによるコミュニケーションや分析技術が全く取り入れられていない。規制緩和と同時にサービス産業分野にハイテク人材を入れないとグローバル競争に晒されたら一巻の終わりかもしれません。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 81 社会科学系と理工系の融合、連携は本学では進みつつあります。マーケティングやイノベーション論、標準化戦略など、理系学生が知っておくべき素養がたくさんあり、社工連携は非常に重要であると思います。社会との繋がりでは、公的支援機関が予算がなくて人もいなくて一部崩壊しつつあります。大学と地方の公的支援機関が連携強化することで、地域企業からのイノベーション創出に役立てる可能性があるのではないのでしょうか。ただし、せっかく、人的ネットワークを形成しても、互いの担当者が変わっただけで、連携が途絶えてします例が少なくありません。お互いの組織の担当者が入れ替わっても、永続的に連携が続けられる仕組みが重要だと思います。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 82 エネルギー問題などに代表されるように、科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化については、感情論にならず、慎重にかつ適切に取組を進めることが望ましい。その場合、双方向での対話・協働が不可欠であるが、研究者側の成長、ステークホルダー側の理解には継続的な取組が必要不可欠である。数回での会議のみでは、双方の理解が不十分であったり、中途半端な形で終わることが懸念される。また特に現場研究者の意見や状況が十分に反映されることが望ましいと考える。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 83 科学分野において博士号取得者相当の人材がメディアも含めて広く社会で活躍することが重要と感じる。科学的素養を有した民間の経営者や政治家が集って議論するような場があるといいが、本邦では厳しい状況である。子供や一般国民に科学を伝えるメディアの業界に博士号取得者相当の人材がもっと増えるといいが、現状、新聞の科学部や番組制作者に高い科学的素養のもった人材は少ないと思われる。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 84 何がイノベーションなのかをしっかりと見直し対話することが必要。耳障りの良い言葉を選んで対話することが必ずしも適切とは思わない。研究者の社会リテラシーだけでなく、多様なステークホルダー(研究者,国民,メディア等)のリテラシーに対する取り組みも必要。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 85 社会への発信は重要だが、そのために研究に没頭する時間が奪われているのが現状。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 86 理系の研究者は、国民に対する説明が不十分だと感じる。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)

- これらの問題もまた、大学と社会双方に原因と課題があるため、大学側だけをどうこうしていても解決できないであろう。大学はかつてないくらい社会リテラシーに時間を割いている。地元の小学生から高校生、社会人、退職したお年寄り、外国人など、本来の大学の教育対象である大学生と大学院生を足せば、ほとんどすべての世代と接し、機会あるごとに講演会や実験、体験入学、講習会などを開いている。新聞やテレビ、ホームページはもちろん、小学校や中学・高校へ向かって授業をしたり、講演をしたりしている。研究データや資金の取り扱いに関する倫理的問題にしても学内で教員（研究者）向けにしょっちゅう講演会や講習会を開き、ウェブなども利用して試験も受けている。しかし、社会の啓もう（科学に対する関心や男女を問わず大学への進学率）でも、研究者の倫理教育でも、こうした努力は残念ながら問題の本質を外れていると思う。データねつ造が悪いことだと知らずに行う人はいないし、研究費の不正使用も同じである。大学の講演会を聞いて知的レベルが上がったから、大学に行こうとか、地元の大学に関心を持つ人は残念ながら少数派であろう。本学部の学生の一部は経済的理由で進学や卒業をあきらめている。せっかく博士課程まで修了した学生も、優秀な学生ほど大学の現状を見て、基礎研究を続けることはあきらめて、民間企業に就職する。やむを得ない外れな対策を行っても、いよいよ望まない方向に事が進むだけである。イノベーションがあるとすれば、生き生きと自由な発想で楽しく基礎研究ができる、かつての日本を取り戻す以外にないと思う。（大学、第3G、理学、部長・教授等クラス、男性）
- 87 人文・社会科学が弱すぎる。（大学、第3G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性）
- 88 研究者と社会のつながりを強めなければならない環境に気づくようになったという意味で、取り組みはある程度評価できるかもしれない。ただし、人文・社会科学及び自然科学の連携の面は限りなくない。色々な面でのしがらみが強くて単純に研究のためにつながることは難しい。むしろ社会連携を口実に外部から連携を促すような形が望ましいのかもしれない。（大学、第3G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性）
- 89 不十分だとは思いますが、大学教員がするべき仕事ではないだろう。ほとんど市民の来ないような公開講座等を行っても時間の無駄。国や予算配分機関が広報に特化した人材を配備すべき。（大学、第3G、理学、研究員・助教クラス、男性）
- 90 科学研究に関わる社会リテラシーは、画一的な研究者教育やトップダウンのプロジェクトで推進できるものとは思えず、まず人と人の接点があって生まれるものです。なぜなら科学研究も社会もあまりに多様であり、その任意の2分野を取って、何かしら意味のある関係性が生まれる事は望み薄であって、個人々が様々の接点を試し考える事で初めて繋がりが形成され得るからです。現在、わが国の研究者（PI）は教育および事務的業務で多忙にすぎ、そうした繋がりを形成する余剰の時間、労力を十分に持っていないと思います。またアウトリーチ活動を「点数化」して業績評価すると、その点数に反映させやすい活動が奨励される一方、反映されない活動は萎縮しかねないという意味で、却って「保守化」する虞れもあります。活動にインセンティブを与える事には一定の合理性はありますが、成果を産むか産まないか分からない活動にじっくり取り組める余剰こそが、大学社会とその外の社会の多様な結びつきを形成するために必要なのではないでしょうか。（大学、第3G、理学、研究員・助教クラス、男性）
- 91 インターネットを通じて草の根の取り組みが行われているが、そのような取り組みができる人材はまだ限られており、研究者と一般の人々をつなぐような人材の育成がより必要とされているように思う。（大学、第3G、理学、研究員・助教クラス、女性）
- 92 科学者が、正しい科学情報を発信していくことの重要性は、福島原発事故以降、特に、認識されるようになっていく。原発事故以来、国の行政施策までが、科学的知識に基づかないいわゆる風評によって左右されるのをしばしば目撃するようになった。まず、国はこの点で襟を正さないと、社会の科学技術に対する信頼が揺るぎ、迷信がはびこる困った状況が生まれかねない。これは科学技術によるイノベーションにとっても大変マイナスな状況と考える。この点に関しては科学者の責任も重大である。（大学、第3G、工学、部長・教授等クラス、男性）
- 93 特に工学系における小中学校での啓蒙活動が不足しています。これは、子供の多くが教員に憧れるのと教員は自分の分野以外を知らないためであり、教員の専門分野の偏りが原因と考えられます。その即効的な対策としては、しばらくは、採用前の理系教員が工学部で研修を受けたり学べば採用に有利になるなど採用する人材の分野を傾斜させたいと思います。採用後の研修は、最近では保護者のクレーム対応も多く、教員は大変なことになっているので、不可能と思われる。何れにしても、小学校レベルから啓蒙すれば、20年ほどかかりますが、科学技術立国は復活すると思います。即効的な効果は諦めて（我々が無理してなんとかして）、次世代に託しましょう。（大学、第3G、工学、部長・教授等クラス、男性）
- 94 人文社会科学系と自然科学系との連携、特に組織としての連携や取り組みが行われていることについてまったく情報を持っていない。恐らく日本全体の実情ではなかろうか。文化の違いを乗り越えた両者の歩み寄りを促すような機会を設けることが必要と考える。（大学、第3G、工学、部長・教授等クラス、男性）
- 95 多様なステークホルダーとの対話・協働による政策形成や知識創造に結びつけるための取組については、一定の活動を行っているものの、今後さらに取り組みを進めるべき課題の一つと考えてます。（大学、第3G、工学、部長・教授等クラス、男性）
- 96 工学部なので、社会との取り組みは特に多いと思います。（大学、第3G、工学、部長・教授等クラス、男性）
- 97 私がハーバード大学にポスドク研究員として留学していたとき、指導教員の○○○○○教授は、ゲオルグ・ヘーゲルの弁証法を用いたディスカッション形式により、常に学生やポスドク研究員の提示する「テーゼ」に対して「アンチテーゼ」を用意し、互いに止揚しあつて、より高次の「ジテーゼ」を紡ぎ出すという手法により、螺旋階段を議論の相手と一緒に登るようにして研究を効率的に進歩させるという手法を取っておられました。つまり、教員と生徒とが、対等の立場で議論し、「教え合い」をするという、ソクラテス型の学術集団が形成されていたのです。このような、知識と技術の等価交換を行うソクラテス型の生産的な学術集団が、今後日本社会においてより増えていき、科学技術イノベーションの大きな原動力となってゆくためには、大学における教員や研究者と、社会の人々との間の「ソクラテス型の対話」の機会も、より増やしてゆくべきであると考えます。つまり、大学における研究成果を、実験的に社会実装することをより行いやすくし、その社会実装の過程において、大学における教員や研究者と、社会の人々との間に、「知識と技術とを、互いに等価交換し合うソクラテス型の生産集団」としての関係が生まれ、今後の日本における、科学技術イノベーションの原動力となってゆくものと思われまふ。（大学、第3G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性）
- 98 文理の隔たりを大きく感じる。自然科学系では、例えば「人に係る研究倫理」はシステムティックに整備され、各大学でも厳格に審査する仕組みが整備されているが、人文社会系の研究倫理に対する意識が低いように思える。（大学、第3G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性）
- 99

- 100 研究者を大学や研究機関に閉じ込めず、より社会に出して透明性が強化されたことは良いと思われるが、だからといって社会的な要請のみに従って研究の推進の方向性等を決めることはしないように注意すべき。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 101 質問の意図するところはわからなくもないが、おそらく特定分野にしかあてはまらない質問なのではないか。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 102 東京では社会と研究の関わりに関するいくつかの催しがあるようですが、地方ではほとんど見掛けません。もっと子供から研究に触れる取り組みや、最先端の研究者が社会に対して情報発信をする機会があつて良いと思います。留学していたアメリカでは、大学院生も社会との関わりをはっきりと意識していると感じました。日本の大学院生・教員はその点の意識が希薄だと思いますが、それは日本全体の仕組みによるものであつて、個人の問題ではないと思います。社会との関係深化に直接関係するかわかりませんが、個人的には、中学校以上の理科教員は全て修士号を有することを義務付け、早期から体験実験などを通じて科学に対する興味・モチベーションを醸成することが必要だと思います。そのような背景の中では、研究者が社会に対しての関わりを持つと思う気持ち、また、それに対して一般の方が受けとめる感情も、より良いものになると思います。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 103 多様なステークホルダーにおける対話や協働を進めるには、個々の対話力をあげる実践教育と、現実の課題を知ることが不可欠と思われる。そういった機会を増やしていかないと、社会における研究成果の効率的な利用は進まないと思われる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 104 長期展望に立った将来の課題を考える際には、科学の力ですべてが解決するという「自然科学至上主義」の盲信から、「人文・社会・自然科学」の複合的観点が必要である。つまり、本来の意味でのPhilosophical Doctorの必要性が求められている。しかしながら、長年にわたる文・理の断絶による溝は埋めがたく、現在の教育を担う中核の人材層において社会リテラシーを有する人材が既に枯渇しているように思われる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 105 真に革新的なイノベーションは、特になにもせずとも自動的に社会に普及するはずなので、問題は、準革新的イノベーション、あるいは予想外のイノベーションを機能させる仕組みがあるかどうか。そのためにも、分野を超えた横のつながり、情報共有、交流の機会を設けることがまず重要であろうと思う。良い科学技術であっても、まずは周りへ知らせる、周りがその存在を知ろうとする態度がないことには科学的にも社会的にも普及しない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 106 東京、大阪に在住していた際は、科学館での展示やサイエンスアゴラ等のイベントが充実しており、社会と科学者が関わりや牛状況にあつた。一方、地方に赴任した現在はそうした場(施設/機会)がほとんどなく、また現地の関心も薄い。例えば研究室公開のようなイベントも、あくまで受験生向けであり、地元民が研究に関心を持つ環境ではない。地方創成を狙うのであれば、こうした社会リテラシー環境の充実も重要ではないかと考える。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 107 研究成果の本質が適正に評価される社会の形成が望まれます。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 108 資本も企業もグローバル化している中で、日本だけで解決出来る科学技術と社会の関係に関する課題は少なくなっている。日本だけが利するのではなく、世界経済の好循環を生み出すことにより日本の国民も豊かになる仕組みを国際的に連携して作り出すことが重要と思われる。果たしてTPPは役に立つのだろうか？(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 109 大学が法人化されて多くの基礎的研究が中断に追い込まれている。大学が研究を行うという当然の使命が、利益追従のもとで排除されている。基礎研究について、人文・社会学関係者充分な話し合いをする必要がある。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 110 ステークホルダーの定義をきちんとしないと誤った方向に流れると感じています。教育機関としては、50年後、100年後、それよりも先の社会を意識して人材育成を行うべきです。しかしながら、目の前の学生、親などだけをステークホルダーとした場合、安易な教育の効率化だけに走る危険性があると思います。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 111 農学分野は、自然科学系と人文社会学系の教員により構成されているため、他の分野よりは両者の連携が行われており、両者の評価方法の違いについても理解が進んでいると思う。また、異なる分野による共同研究や市民講座なども多く行われており、成果が得られている。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 112 必ずしも全てが速やかに進んではいないと思われるが、それぞれ着実に進んでいるものはあるのではないかと？(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 113 「関係深化」と「推進機能の強化」の意味を掴み切れておりませんが、科学、研究、研究者に対する国民の理解が深まり、「失敗」しても次があるという考え方が広がれば、イノベーションの起こる確率が高まるのではと思います。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 114 国として、取り組みがなされていることは、なんとなくわかります。しかし問題は多様なステークホルダーといっても、一部の中央のエスタブリッシュした方でのみ検討されている、よって地域でイノベティブな取り組みをしている研究者や社会の人々の意見が十分取り入れられるシステムではない、よって本当の意味での多様ではなく、未だ固定しているように感じます。研究者でいえば、単純に個別の競争的研究費を取得している地方の研究者をそのような検討会議にいれるだけでも、本当の多様な検討ができると思います。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 115 倫理にかんしては十分すぎるくらいで、研究をするより倫理関係の書類を作っている時間の方が長く感じます。すごい矛盾です。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 116 大学研究者が一般社会と交わる、あるいは発信する機会が乏しいのが現状です。多くの大型科研費では、セミナーやシンポジウムを開くことが推奨されていますが、これが効果的な方法かについては疑問があります。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

117 応用研究については社会への発信に向上を認めるが、より基礎的研究の強化も必要(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

118 デモクラシーは十分に教育された国民のもとでのみ成立する。多様なステークホルダーの間での対話・共働は重要だが、未解決の課題を解決していく最先端の科学を、十分な知識・理解力がない人たちに、どのようにして理解可能な形で伝えていくかが、対話・共働を可能にするための前提として求められていると思う。効果的なサイエンスコミュニケーションがなされるようになって初めて、多様なステークホルダーの間での対話・共働による政策形成や知識創造が可能になると思う。その部分ができていないと、混乱・混迷を極めるだけだと思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

119 科学技術と人文系社会の隔絶は、個人・団体・企業といったさまざまな単位で深刻だと思います。科学リテラシーの向上は、先進国として急務ですが、ヨーロッパ諸国とくらべて日本は遅れていると思います。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

120 多様なステークホルダー(研究者,国民,メディア等)が双方向で対話しているところを見たことがない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

121 市民公開講座などを通じて、地域の産業関係者や市民に対して大学発の成果などを伝える機会は多く、かなり重視されていると思う。但し、情報発信が一方的である側面が目立つことも多く、社会との関係を深めて行くには、特化した内容について小規模で双方向性を持たせたワークショップなどが必要だと思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

122 今の大手メディアに科学技術について合理的に対話する意欲と能力が残っているか、疑わしい。ステークホルダーというより、むしろ道具ではないだろうか。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

123 市民公開講座、ときめきサイエンス、高大連携など、さまざまなイベントがあるが、義務化している雰囲気もある。ぜひ、真に自由な雰囲気でき議論できるあるいは情報提供できる、国民への社会還元を意識した部門を立ち上げて頑張りたいという科学技術と国民との間を結ぶ人の育成と保護が必要である。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

124 科学技術イノベーションを興すにはイノベーター、つまり研究者の地位(給与)を上げることが一番だ。正当なリターンがあれば、もっと社会とつながると思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

125 社会との関係をより深めるには、例えば、一方的に大学側から単に情報発信するという従来の広報だけではなく、科学コミュニケーターのような人材を各大学が育成・確保し、大学・研究者と社会の間を取り持つ専門家を増やし、進めていくべきだと考える。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)

126 市立大学の性質上、大学教員・研究者と市民との交流の場(市民向けセミナーなど)は複数設けられている。他方、学内で人文・社会科学系と自然科学系との間の連携体制が十分に構築されているとは言えず、改善の余地がある。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)

127 科学技術と社会との関係については、回答者はほとんど問題意識をもっていない。理由は三つあって、一つ目は大型予算が配分されている研究者がやればよいと思っているから、二つ目は社会(一般人やメディア)に研究や技術の話をも十分に理解する素養がないように感じるため、三つ目は社会との関係に関して考える、議論する余裕がないためである。取り組みの是非は置いておいたとしても、研究者が負担するのではなく、専門の人材を育成することが必要だと思う。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)

128 大学の教員と市民、研究対象となる当事者、他分野の専門家などが話し合える場が作ればと思います。大学の中でのみで話し合いをしていると、大学における研究がどうあるべきか、考え方の幅が狭くなっていくように感じます。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)

129 大学は文部科学省との結びつきが強いが、経済産業省とは工学系は太いパイプを持っているが、農林水産省とは不十分。文部科学省以外の省庁も積極的に大学の教育・研究に貢献してもよいのではないか。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

130 科学技術イノベーションの社会との関係深化は欧米に比較すれば、始まったばかりというべきであろう。問606については八方美人的な支援ではなく、我が国が今後深く提携すべき国への支援、即ち「選択と集中」を深く議論すべきである。607については、3.11東日本大地震対応や豊洲移転の例にみられるように、専門家の意見が軽視される潮流が我が国に増幅しており、極めて危険な状況にあるというべきであろう。これは、仕組みの問題というよりも、機能しているか否かの問題である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

131 インターンシップ等を通じ社会との具体的なコミュニケーションを行う教育の制度化。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

132 科学的知見の政策全般への活用や、科学技術政策のための科学者の助言活動はそれなりに制度化されているが、政治がそれらを受け入れる気持ちをもっと強めるべき。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

133 科学技術イノベーションは、特定の限られた分野の科学技術の推進のみではなく、それ以外の幅広い分野の研究の進歩がなければ、実現できないものであると考える。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

134 独自の国家プロジェクト(科学技術)が必要である。提言などが欧米の追従の闘いでない。狭い分野の専門家集団では、将来を見通せていない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

135 日本には、長期的視野をもつ司令塔が、制度的に構築されていない。また、その人材も決定的に不足している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

- 136 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化に目が向けられているが、科学技術イノベーションの推進に関しては、その源泉となる「苗の研究」に対する視点が著しく欠けている点が一番の問題である。社会の中で、研究者の自由な発想に基づく苗研究を担えるセクターは大学しかなく、大学における苗研究が立ち行かなくなれば、将来のイノベーションの種は枯渇する。早急に大学における基盤研究費を増額すべきである。その上で大学における研究成果をいかにして社会に実装していくかを問うべきである。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 137 科学技術立国を国是としているところから、十分な社会との関係深化と国際的な視野に立った推進機能強化がさらに求められる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 138 目的大学として単に変化と人間との関連を研究し、必要な課題への対応を行うべく、研究面、人材育成双方での機能強化を図っている(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 139 国民の支持を得る姿勢が重要であり、その意味で情報発信とともに、良識あるメディアへの説明責任を果たす必要があるだろうと思う。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 140 大学における教育の重要性を強く感じている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 141 若い人材が育ってくることに期待する。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 142 文系と理系の相互理解はまだ不十分などところがあると思います。学部学生時代から相互理解を深めるような取り組みがあるとよいのかもかもしれません。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 143 アカデミックな研究は社会的要求の大小・貢献度の有無によらず評価されるが、工学的な実用化研究は企業任せになりすぎていると感じる。こんなところが、日本の大学研究者の(企業への)役立たず・社会性・倫理感の欠如、を引き起こし、結果として、企業・大学間の希薄な連携の現実、の一因では?と考える。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 144 技術開発とその利用は別の話。技術開発をする人に社会での利用法まで考慮させるのは過負荷である。また、人文・社会科学の人の多くは自分の思い込みを話すだけで、なんのデータもエビデンスも示さないで、自然科学研究者は彼らと会話しても時間の無駄だと思っている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 145 学生については、社会課題に関したテーマでのアクティブラーニングに取り組むことのできる時間を確保できるよう、カリキュラム等の思い切った改革・工夫が必要と考える。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 146 上記の件は、最近多く実施されるようになってきたが、更なる取り組みが必要であるように思われる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 147 そんなことを重視するより、研究本体を重視すべき。特に基礎分野は、どうなるか、誰にも想像がつかない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 148 イノベーション＝技術革新という、狭い意味でのイノベーションへの取り組みが中心であり、シュンペータの言うイノベーションの5形態に広げたイノベーションの理解と推進が必要。破壊的イノベーションに対応できる取り組み、特に評価者、の強化が必要。既存の企業経験者では破壊的イノベーションへの対応は文化的に無理。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 149 マスコミに科学を理解する人材が決定的に足りていないと感じる。そもそも、国民に科学への関心が広範囲に広がっていない。中身を見ようとせず、印象だけで大学が捉えられているため、研究費汚職のみが知られることとなっている。我々が科学について説明しようとしても、一部の階層以外には全くアクセスできない。せめてマスコミにも少し広い視野を持って欲しい。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 150 大学での研究成果を積極的に国民、メディア等にアピールし、大学の役割を広く知っていただくことが必要だと思います。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 151 イノベーションという名のもとに、産業界の要請に重きが置かれすぎており、長い目で見た本来の科学の発展が阻害されている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 152 文理融合の試みは10年以上前から行っており、経験が蓄積されていることは素晴らしい。しかし、融合できていない部分が大半であり、前途多難である。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 153 社会との関係深化については、とくに地域住民との対話や協働についての取り組みがなされていないので、改善や強化が必要であろう。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 154 そもそも「学術研究の現代的要請」に社会的視点が入っていないのがおかしい。国(あるいは科学技術・学術審議会等)に「社会との関係深化と推進機能の強化」の視点がないのであれば、大学や研究所に制度として組み込まれず、進まないのも当然。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 155 様々なメディア媒体を通して研究者とステークホルダーの対話が行われつつあると思いますが、固定の研究者などが取り上げられるなど一部偏りが見受けられるのが残念です。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 156 科学技術イノベーションと社会との関係をより深く、強くするためには、もっと大学が機能することができるし、担うべき役割が大きいと考えられる。しかし、大学内には人材が不足しており、リーダーシップを十分に発揮できていないのが現状ではないだろうか。今後、科学技術イノベーションと社会との関係深化を重要課題として認識すべきであり、大型の予算措置を伴う強化策とそれを起動する柔軟な組織体制づくりが欠かせない。(大学,第4G,工学,社長・学長等クラス,女性)

- 157 依然として、自然科学分野と人文・社会科学分野の隔たりが大きい。この状況は大学よりも社会において著しく、社会の自然科学リテラシーを高める取り組みを進める必要があると考える。一方、大学における研究者のリテラシーは、文理融合型の学部新設が相次いでいることに代表されるように、かなり改善されてきている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 158 新学部の設置により、強化された。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 159 これ以上この分野の強化を行うと個々の教員の研究活動に支障がでる恐れがある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 160 研究者の社会リテラシーや科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題に関しては、現状では問題があることを認識はしていますが、それを解決するための具体的手段を知らない、あるいは、関心があってもそれに取り組むだけの余裕が無いと云うのが現状だと思います。また、多様なステークホルダーが双方向で対話・協働することに関しては、研究者、国民、メディアの相互が互いに良く理解できるように努力することが必要だと思います。研究者側が一方的に『分かりやすく説明する』ことを求められても、分かりやすくすることにも限界がありますし、無理に分かりやすくしようとすれば、本質を見失う程度に単純化させざるを得なくなり、結果的に関係の深化は不可能になってしまうと思います。相互が理解使用する態度で望むことが大切だと思います。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 161 人文社会科学系の学部は事実上研究活動を呈しており、まともな連携は困難である。大学から発信される広報内容も、重要な研究成果に目を向けず、地元の学生や企業に媚を売るような的外れなものが多い。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 162 科学技術イノベーションが社会に還元できるケースはあまりにも少なすぎる。ほとんどが海外の企業による社会還元になっているのは問題。日本企業の教育を行うこと。日本社会のシステムを変える方が重要。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 163 ミュンヘン空港開港にあたっては、成田空港問題をかなり研究したと聞く。あれからずいぶん時間が経ったが、原発しかり、豊洲移転しかり、政策形成には何も生かされておらず、残念の一言に尽きる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 164 601について、実際の現状はわかりませんが、一般での科学リテラシーの低さを見ると研究と社会がうまく関わっているようには見えません。602について、ライフサイエンス、インフォメーション・テクノロジーの法的整備が現状や社会要請と全然マッチしていないと感じます。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 165 日本学術振興会産学協力研究委員会インターネット第163委員会やサイバー関西プロジェクトなど、産学連携のコミュニティ醸成は今後の研究成果の実用化に向けた議論を行う上で重要な場であると考えています。国内の研究コミュニティにおいて、論文だけでなく、このような産学連携の取り組みが評価されるために、意識改革が必要になってきていると感じています。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 166 産官学側の取組は十分であるが、この件に関する国民の意識や情報を提供するメディア側の意識が低く、醸成されていないと感じる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 167 倫理、プライバシーなどの締め付けは、異常に強くなっており、国としては研究競争力を落としたいのだとしか思えない。ある一定のルールは必要だが、必要以上の締め付け、ルール作りは、書類を作る人の事務作業、確認する人の作業など無駄な労力であることを省庁に理解してもらいたい。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 168 科学技術と一般社会(一般市民)との接点がまだまだ少ないように思う。理科系離れの要因の一つと思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 169 すべての分野で研究と社会の関わりを広く一般に示す必要は無く、またできない領域もある。そのような領域の中には、基礎的に極めて重要な分野などもあり、それを評価できる人材の登用等により、多面的に評価できる仕組みが望まれる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 170 私のまわりでは、常に社会の目を気にする研究者が増えたように思う。その結果、自由な発想は制限されているような気もするので、少し残念である。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 171 大学では実用化研究や社会問題解決や技術の社会実装などは人事評価も取り組み評価もされず、従来とおり、毎日学校にゆき、従来とおりの生活をするのが高く評価される。企業に技術紹介へ行ったり学外で活動することは、大学寄与が少ないと評される傾向にある。以前これで学科長に呼び出され事情説明させられた。これでは技術の社会実装や社会問題発掘は難しいと思われる。実用化や社会実装は非常にやりにくい環境がある。むしろ、殻に閉じこもり、自分のやりたい研究をおこない、学術論文にまとめている方が高く評価され、研究者も大学もwin-winのように思う。市民益を考えた研究は、好まれない現実がある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 172 問6-02について無学なだけかもしれませんが実例をまったく聞いたことがありませんでした。研究組織内の自然科学研究の社会実装可能性を社会科学的観点から探る(研究活動として)ポジションがあってもいいのかもしれませんが。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 173 残念ながら、我が国の一般における科学リテラシーはさほど高くない。専門的な観点からの分析結果よりもマスメディアの恣意的に誘導された「わかりやすい」コメントを国民は信じる傾向にあり、危険と感じている。この点は、研究者自身が社会へ直接発信する機会を増やすことである程度打破できると思われる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 174 研究成果による社会的インパクトを多面的に評価する仕組みという言葉が上にあるが、評価者の能力というより好き嫌いで評価されている場合もある。かといって、多面的に評価を受けるための研究成果の発表準備はとても大変であり、研究者一人ではとてもできない。時間的に難しい場合もある。大学には、外部資金(科研費など公的資金や企業との共同研究)の獲得をサポートする人はかろうじているが、成果を多面的な評価に耐えられるように取り組めたり発表の場を設けたりというサポーターはまだいない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)

- 175 ノーベル賞の受賞があった際には科学技術や基礎研究について大きくクローズアップされるが、それ以外では多くの国民が科学技術について注目することは少ないと思われる。国全体となるとスケールが大きすぎて私自身、ピンと来ないところがあるが、市町村レベルで地域の大学を巻き込んだボトムアップ式の取り組みが必要のように感じる。目立った成果にのみ注目が集まるが、目立たずとも面白く将来性のある身近な研究も多いため(特に地方大学では)、それらを地域で共有して良いものは全国に広げていくといった取り組みが可能であると社会と科学技術の繋りが太くなっていくものと思われる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 176 われわれの大学の場合は各系での横のつながりがある程度あるため,連携が比較的取りやすいと思う。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 177 研究者の社会リテラシーを学ぶe-learningシステムの普及によって,個別で捉えられていたリテラシーの共有化が行われるようになったと思います。ただし文系,理系の区分けの概念がかかり強く,文系を選択した場合,理系を選択した場合で取り組むべき課題が既に分けられてしまう状況が続いていると感じています。例えば1つの社会問題に取り組む資金を得る場合に複合メンバーでないと応募できないなど,融合するための仕組みや,文系,理系といったカテゴリーに留まらないワークショップの実施などを行うことで垣根を取り払えればと思っています。円卓会議などがそちらにあたるかと思いますが,残念ながら参加したことがないため状況がわからず上述の提案をさせていただきます。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 178 多様なステークホルダーを構築には日本の優れた民間大企業を連携して,大企業の社会貢献を促す優遇税金政策などが必要である。議論する場,予算,制度などフリーで行われる必要がある。また英語教育を強化する必要もある。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 179 研究者自身の経験が,弱いと感じる。外部組織の経験者を軸とした取り組みが弱く,自身の研究領域の発想に留まっている研究者が多くなってきているように感じる。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 180 社会における科学技術の理解は非常に重要であるが,特に関係深化の取組が行われてはいない。新しい発見や顕著な研究成果があがった場合は,プレスリリースを出して,マスコミからの情報発信を心がけている。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 181 全体的に不十分と感じますが,問6-02に関する部分としては,分野によるのではないのでしょうか。例えば,医療関係であれば,倫理的・法制度的・社会的課題の解決は社会実装に向け必須なので,そういった分野では積極的に取り組まれていると思います。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 182 科学技術の進歩と,一般の人たちの知識と倫理観が全く追いついていない。教育が粗末になってきていると痛感する。教育に携わる教員の質,親の質をもっともっと高めることこそ必要であり,初等教育現場でも学位保持者が必要であろう。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 183 研究者の中でも,基礎系・応用系・臨床系など,さまざまな分野間での協働がまだまだ不十分であるように思われる。そのため,自分も異分野の学術活動に参加し,情報収集する必要性を痛感している。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 184 研究者が時間的余裕を持って市民と会話ができる,そしてそこからニーズを察知し次のアイデアを生み出せるような機会を大学を積極的に開催する必要がある。あまり大きすぎる人数ではいけない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 185 歯学部においては,上記点について,全く考えられていないと思われる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 186 あまりイノベーション,イノベーションと言い過ぎない方が良い。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 187 日本全体として,理系と文系の間に溝を作ってしまったことを憂慮する。個人的には,自然科学を専門としているが,社会科学にも大いに関心を持っている。そのような人が周囲には必ずしも多くはないし,マスコミの論調にもほとんど感じられない。むしろ,あたかも文系理系の間に壁があるような幻影を作っているように感じる。まず,多くの人たちの意識改革が必要である。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 188 もっと研究者が既存のメディア(TV・ラジオ)に登場する機会があっても良いと思います。それも,教授・准教授クラスだけではなく助教クラスからです。研究者には,社会の中で研究者として生かして貰っている以上,また公的な研究費を頂いて研究をさせて貰っている以上,自分の専門とその周辺を研究者以外の一般人や高校生,企業でそれを聞きたい人に説明する努力が必要だと思います。またこれは想像ですが,そうして研究者を大学や研究所の外で活かすことは,産学連携する機会や,大学に居る研究者や大学院生を将来企業が戦力として採用する可能性を高めることにも繋がらないでしょうか。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 189 偉い先生達が集まってまとめられる提言には本当に立派なことが書いてあると思います。しかしそれを実現するための具体的な(人的・資金的)手当てがない以上,「みなさんこれまで以上に頑張ってくださいね」ということにはかならず,末端の現場にまで浸透しないと思われる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 190 遺伝子組換え食品やP4実験施設等に対する日本の社会の反応をみると,リテラシー教育の重要性を痛感する。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 191 見当違いな記載かもしれませんが,すみません。科学技術は,人の社会を豊かにするものであり,それは国際社会の平和があってこそ活かされるものと思います。草の根レベルの人と人とのつながりの強化,社会貢献の見える化(開発途上国への資金援助だけでなく,日本がそこから得られていることの国民への周知,国際社会のバランスの重要性の認識)により,双方向の理解が進み,平和が広がることを祈っております。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 192 倫理・法制度に関しては,定期的に全員参加のセミナーを開くなどして取り組みが行われているが,教育・指導的な意味合いが強すぎ,人文側から科学側への一方向感否めない。社会との関係性も,社会的課題解決案や研究成果など研究側から開示はあるが,それを還元・評価する仕組みは無いため,これも,一方向感が否めない。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)



- 193 科学技術と芸術との相互交流を深めることにより、イノベーションの形成が期待できると思う。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 194 科学と社会という視点や,自然科学と人文・社会科学の連携は重要だが,安易な浅い議論が横行していて,現状では害を及ぼしている。政府が関係する会議での「有識者」の思いつきの意見で国の方針が左右されることがあまりにも多い。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 195 研究と社会との関わりを考えることの重要性は言を俟たないが,昨今の風潮は,研究を萎縮させる方向に動いているようにさえ感じる。大隅教授が記者会見で述べられたように,社会が基礎研究の意義を認め,余裕を持って育成していく意識を醸成していく方策の必要性を感じる。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 196 公的研究費利用の倫理的な課題について,当方の所属組織では定期的に研究倫理・公的研究費不正防止を実施しているが,外部講師および説明資料のクオリティが低く,参加者で危機意識が共有しにくいという問題があると考えます。交通違反者研修のビデオのように,視聴者の危機管理意識を再確認させるようなコンテンツ作りが急務であると考えます。コンテンツ作りについては,外部に委託するのではなく,研究者も積極的に関与して作成してはどうか。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 197 科学技術を理解した人材がもっと社会全体に溶け込み,彼らを通して科学技術イノベーションの社会を連携を強めていく方法もあるのではないだろうか。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 198 公的機関の研究においては,本来ステークホルダーは納税者であるが,彼らの意見形成に果たす役割はメディアが担ってため,實際上,ステークホルダーはメディアというのが現状だと思う。その強大な権力を持つメディアのクオリティは千差万別であり,科学的な考え方を全く有していない場合も多々ある。こういう状況を改善するためにはマスコミとの良好な関係を築く,もっと言うてしまおうと,彼らに科学的な素養を身につけてもらう必要がある。これらを担当するのは広報であるが,どこの大学および研究機関も広報が貧弱だと感じる。広報強化を望む。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 199 意識のある人となない人の差が大きいと感じる。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 200 危機意識が感じられません。東京中心の会議体としか思えない審議会が多いことが原因なのではないでしょうか。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 201 世界の状況を踏まえた俯瞰的な取り組みについては,我が国の取り組みとしては弱いように考えている。将来の自然や社会を考える俯瞰的な視点からの取り組みとしても,自然災害,気候変動,再生可能性エネルギーのさらなる導入,安全な食物生産などの,研究のレベルを考えると我が国としてリーダーシップを果たす分野は多いと考える。国民の理解を得ながら,学会と社会,行政の連携による先端研究や基礎研究への意識合わせのしていねいな仕掛けづくりも必要と思う。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 202 政府の政策が浸透していないため,多様な政策を形成し,科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化につなげてほしい。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 203 回答者の専門分野の主要国際会議での基調講演等で,日本からの発表の占有率は依然高く,優秀な研究者による優れた基礎研究はいまも継続して進められており,世界に発信できている。一方で,国際会議等において中国等のアジアの国のプレゼンスは確実に増大している。著名な国際会議におけるアワード・賞の設立など,成果一辺倒でないアプローチがみられる。日本も適切な対処が必要なものと思われる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 204 現在のような時間的にも人的にも余裕のない研究環境では,研究者の社会リテラシーを向上する取組は,場合によっては単なる研究者への負担になるだけで,せつかくの取組が空回りするのではないかと危惧される。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 205 総合科学技術・イノベーション会議は結局は各府省の利益獲得の場になっているとの批判も一方ではあり,その側面も否定はできない。たとえば府省間連携とよく言われるが,A省とB省の施策のキーワードが類似しているからと言って無理に融合させてみても外見上は見栄えが良いが実態は効果が薄い。しかし必ずしもそういう側面だけではなく有効な施策も生まれており,我が国の科学技術振興に一定の貢献をしていることも事実であるので,今後さらに改革が進むことを期待する。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 206 言うまでもなく大学等の研究は税金で支えられており,そこで作り出される科学技術イノベーションは企業との連携の産物であっても,十分に社会の理解を得るためのプロジェクトの紹介と成果のアピールは不可欠であり,市民やマスコミを取り込んだコンソーシアム形成などを推進すべきである。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 207 大事なテーマではあるが,予算に限りがあるので,ほどほどに。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 208 (\*アカデミア・公的機関からの提言に対して,その対応策が個別的。グローバルニーズも,切り離して取り組むと,グローバルな解決には届かない。総合的な視点からの政策への連動が期待される。\*) 途上国の人材育成(特に理工系人材)への積極的な関与が必要と思われる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 209 組織の面でも,学問領域(関係学会どうし)の面でも,まだまだ縦割り意識があつて,連携が十分に取れているとは言い難い。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 210 民間資金を大学の研究に導入するしくみの一環として,public relationを考えることが行われていない。PRとは広告でも広報でも無く,大学への寄付者に対して,知の生産者であり,伝達者である大学がどのように敬意を払うかを示すことと思われる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 211 必ずしも正しいとは限らない政策などに基づく,研究・技術イノベーションが規定事実のようにすすめられているように思われる。現時点で,即,起業や産業と経済活性化にばかり目を向けた金になる研究や技術の推進に偏重しないよう,国民の幸福と安寧のために将来を見据えた研究などをむしろ推進するような取り組みが必要に思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)

- 212 政府は中長期的ビジョンでの議論を行っているものの、現場の大学の台所事情は火の車状態であり、研究者は任期つきのために自身の長期ビジョンに基づく研究展開は困難な状況である。社会との連携を深めながら研究・教育を行う研究者へのインセンティブを高める方策を提示するとともに、博士号取得者にとって魅力ある就職先となれるような環境を作るべきである。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 213 基本的には、あらゆる方向にオープンでなければならない。科学技術が一般によく分からない状況に置かれ、一般大衆と技術が乖離すると、科学技術に対する信頼が低下し、必要な資源、資金の確保や十分に行われなくなる。そのような状態になれば、いくら専門家の集団が提言、助言を行っても、機能しなくなる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 214 まずは、欧米の主要大学が持つような社会の基盤としての大学の矜持の高さを持つことが必要であり、大学が地域と密接な関わりを持つ中で、新たな社会的価値の創造や生活環境の改善に率先して取り組む姿勢を打ち出すことが大切である。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 215 その時々の方針に影響されて、長期の科学技術立国への見通しがなされていない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 216 いずれも順当であると考える。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 217 本項目についての支援を地方創生の起爆剤に。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 218 オリジナルな研究を推進する取り組みがあまり積極的になされていない。これは大きな問題で、企業が望んでいる技術革新とは、芽になる基礎研究の成果である。そのための基礎研究費が貧弱では、日本の将来はない。小額ずつの基礎研究費を多数配分すべきだ。集中する研究配分は競争する際には意味があるが、競争でない発見の分野では害しかでない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 219 末端の研究者・技術者は日々の業務に追われているため、総合科学技術・イノベーション会議等の基本計画に関して、その真意が伝わっていないように感じる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 220 利益追求型の社会の変化が急激に起きており、その起こす副作用やリスクを事前に予測する取り組みは、社会全体として不足しているように感じる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 221 科学技術イノベーションにおいてアカデミアと企業との密接な協力関係が必要であると考えられる時代の変化に敏感に対応した政策が重要であり、持続可能なイノベーションにつなげることが求められている(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 222 審議会や委員会の役割と責任の所在が不明確に思われる。それらから派生した政策のPDCAサイクルを実施すべきではないか。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 223 「科学技術の社会実装」については、企業等を巻き込んだ実質的な議論を行うため、官側の踏み込んだ努力が必要なのではと考えます。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 224 意識改革のための助言や会議は重要だが、もともとそういう意識のある人しか参加しない。メディアを利用して受動的な意識改革を行うことが必要か。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 225 自大学と社会との”科学技術”をキーワードとした関係強化のあり方を認識していない大学が多いのではないかと。具体的で分かりやすい、グッドプラクティスの取組みを可視化させ、様々な媒体を活用し広報すべきである。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 226 科学技術を翻訳して社会に伝えることのできる人材の強化が必要だと考える。一方で、中小企業等の経営者や現場で働く人材、強いては国民全体の科学的な能力の向上を行う必要がある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 227 大学、国研、企業においても若手人材の育成には、研究室、教室、課内での専門性の深化高度化が必要な一方、外部活動(共同研究、海外出張、学会、フェア、奉仕活動など)を積極的に評価することが重要である。キャリアパスにおいても人生の途中で意味のあるサブティカル活動が可能な社会であってほしい。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 228 自然災害への対応に関して科学的な助言を政府が受け入れる体制は徐々にできているが、まだ不足している。審議会の活動には限界がある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 229 現在の総合科学技術・イノベーション会議の議員構成は基礎研究から産業界に顔を向けてきたので、今後ノーベル賞受賞につながる研究成果を生み出す企画は立てられない。基礎研究こそが今後の国民生活・国際活動に必須であることを認識した議員を加えるべき。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 230 国の制度設計側の人間があまりにも老害。考え方が古すぎる。30-40代の頭が若くシリコンバレーマインドを持った人間を制度設計に関わらせるべき。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 231 総合科学技術・イノベーション会議に戦略策定権限が集中しているが、あまりにも実学に偏ったメンバー構成である。基礎研究の価値を理解したメンバーがほぼ居ないと思われる。ここに大学教育にも影響のある基礎研究も含めた戦略策定を行わせるのは長期的にダメージが大きいだろう。基礎研究、イノベーション研究の両方において、単独ではなく「組織を作って」結果をだした経験者(日本人である必要なし)を招へいする必要がある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 232 総合科学技術・イノベーション会議の存在をより広くより明確に国民に知らせて頂くとともに、その機能を一層強化して頂きたい。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 233 決まった官立のメンバーが多い。その多くはイノベーションや実際にプロダクトを行った実績がまったくない人が多い。人材を見つける努力も必要例えば海外のVCやイノベーションで起業に成功した医師研究者など(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

- 234 以前に比べると進んできたと言えるが、まだまだ欧米のレベルには程遠い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 235 科学技術イノベーションは社会の隅々にいきわたるような網羅的な科学技術政策と異なり,どのようなビジョンを持っているのか,いまだ30年後の構想などビジョンを明らかにしたうえで強化をはかる必要性を感じます。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 236 総花的である反面,産業政策的な色彩が濃くて大局的理念があまり感じられない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 237 システム思考が不足している(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 238 地方大に目を向けてほしい。シーズはある。人もいる。お金とリーダーシップ,いわゆる雑用をするヒトを雇用する。それで解決できない大学人には,教育分だけの給与を払うとかで差別化する。均等化では無理である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 239 社会からの理解を得るための取組が不十分であると共に,それに適した人材育成が行われてこなかったことの弊害が大きいと感じられる。文系,理系という即物的な進路分けをしてしまう現行の学校制度や社会の考え方にも問題はあると感じている。政策形成に関して言えば,科学的助言をきちんと受け入れる素地が,政治家にも必要なはずであるものの,実際には,『声の大きな人の意見が通る』など,冷静な判断に伴う政策形成が行われているとは思えない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 240 政治家のレベル低下が著しく,真の科学振興と基礎研究の連携,イノベーションへの持っていく方を自ら知らないことを認識して,学びそれを実践に繋げていく努力する人が科学の政治を行うべきである。本来学問好きは政治を好まず,政治好きの人は学問を好まない傾向は大学でも政治の世界でも同じであるように思う。それを補うのが,大学では執行部であり,政治の世界では官僚であるが,その世界も理想家が少なく,目先あるいは私的にさえなっていると感じる。いずれにしても人材であり,そうした国家レベルでの真のエリート教育の復活が喫緊の課題であると考え。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 241 各個人や研究機関の努力は実を結ぶような流れを作る総合機能機関や司令塔の意図が必ずしも見えない状況にある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 242 社会との関係深化と推進機能の強化に関しては,大多数の研究者はそのような素養を身に着ける機会がなかった。今後のことを考えると,博士課程学生には関連する講義を必修化し,現職の研究者には関連する素養を身に着けるための数年に一度くらいの研修を(半ば)強制することの必要性を感じる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 243 今後,企業との共同研究を進めるに当たって,教員が知財関連の知識をもつことがトラブル回避の観点から重要と考えます。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 244 インクルーシブ・イノベーションこそ,地方大学,地方企業の国際化課題として,率先して取り組むべき内容である。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 245 国や組織が社会との関係性を強める施策や科学技術外交を進める施策をおこなっていても,それを実施することが,研究者としての評価に直結しない限り,研究者は積極的には実施しないと考えられる。海外連携も,先進国からの導入には費用がつかうが,発展途上国との連携には費用がつきにくいなど,施策としてしても整合性を欠いていることもある。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 246 人文・社会科学との連携やグローバル化について教育を受けた世代が育ってきており, 今後に期待できる。(大学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 247 深まって来ていると感ずる。(大学,その他,男性)
- 248 自然科学・工学系と人文・社会科学系との関係はほとんど行われていないと言ってよい。社会実装の切り口でプロジェクトが実行されているのは,JSTの「スーパークラスタ事業」2地域のみ。文科省が11年間支援した「地域クラスタ」事業での産学連携の成果を,地域の中小企業を巻き込んで,社会実装を目指した活動を行っている。戦略ディレクタの必要性大。(大学,その他,男性)
- 249 研究スタイルとしてのボトムアップとトップダウンの関係については,もう少し長期的な視野に立った議論が必要だと感じる(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 250 思い切った規制緩和の促進がまず必要。それによりイノベーションの発信源である民間企業の活動を後押しする。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 251 わが国の最高レベルの科学技術推進機能がCSTIであるならば,いかにも弱体。日本には基本的には司令塔が存在していない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 252 研究者,国民,メディアの対話の機会を増やすべきであると思います。自由な討論の場が少ない状況です。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 253 かなり進んで来ましたが,単純にまだ不十分であると思います。小中学校の教育にこのような考え方を含めていくことが必要な気がします。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 254 社会との関係深化を推進するには,行政に占める科学研究者が少なすぎ,科学技術イノベーション推進に科学的でない議論が入っていると感じることがある。海外のように行政者に博士が占める割合を増やすべきである。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 255 政府に対する科学的助言等について,当機構は,水産庁等,政府機関と直接的に対話し,科学的知見を提供することを主としている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)

- 256 本当のところ、多くの人は何が何だか理解していないのが現状であると思う。具体的な成果を挙げているところの情報を宣伝する必要があろう。それと、究極的には、多くの人が、政府の科学技術政策に信頼を置いていないことが重要。今までのキャッチアップ型から先頭に立ったときの、信用できるリーダーの欠如が問題。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
- 257 韓国ほどでは無いにしても、我が国の学歴偏重は良い点も多々あるが、革新性にかけ、迫力ある人材の養成に重しとなっている。社会に一步ふみだせば、実力とイノベーションが全てであり、学歴等を引きずらないような活力ある社会を早期に実現しないと、21世紀後半は魅力ある日本は消えるのではないか。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
- 258 科学技術イノベーションと社会との関係をもっと広く取り入れるためにはコミュニケーション活動をもって活発化する必要がある。また、グローバル化は遅れており、日本は今まで産業界がグローバル化を支えてきたが、社会を変えるようなイノベーションにはグローバルなニーズを取り込んだ国主導の研究開発が必要である。特に産業界では維持できないような海外への知的財産戦略は国が主導で考えないと、基礎研究のアイデアは日本で発案されたが、国がサポートしないため、海外で実用化されて実利は海外企業が得るパターンが多く見受けられ、日本の財産流出である。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 女性)
- 259 日本の状況にこの視点が大きく欠如しているように思う。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 260 当該活動を専門に担う人材も育成する必要がある。研究者が担うのは酷な場合がある。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 261 科学技術イノベーションは、それ自体を目指すものではなく、専門性の高い学問の追求の中に副産物として発生するものなのではないだろうか？iPS細胞は例外なのかもしれないが、もともとの発想として世の中の役に立つものを創造することを目指すのが、学問に問われるものではないと思う。それが目指したければ別枠にすべきであり、それは企業や私的な研究資金が自らの私腹を肥やすための投資によって賄われるべきテーマであって、国税を無責任にばらまくことで目指すものではないと思う。国のミッションのため必要な研究開発を国が定義して行わせるのであれば、それは国研で行われるべきことであり、それは答えの分かった計画研究である。イノベーションは計画して目指せるような単純なものではないのではないかと。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 262 従来に比べて、関係は深化していると思う。成果を挙げている研究者は、すべての業務(教育, 講義, 市民講座等)をやらないといけない状況に追い込まれていて、研究時間が確保できない。役割分担をすべきである。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 263 研究者と国民との対話の機会は増えてきているが、双方向での対話・協働を行うまでにはお互いの理解度が充実していない状況。双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけていく文化の醸成が必要。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 264 大学、公的研究機関は、機会を捉えて、多様なステークホルダーに研究の意味、社会との結びつきを分かりやすく説明すべきである。特に、海外に比べ、TVに真面目なサイエンスやエンジニアリングを取り扱う番組が日本には少ない。このような状況を変えていかないと、子供達が、科学を目指すようにならないと考える。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 265 研究者の社会リテラシー向上や社会との関係深化のための取り組みの重要性は理解するものの、それ自体が強調されて行き過ぎたトップマネジメント(含: 科学技術行政)により研究者の自由な発想や研究時間確保を阻害している場合もあるように思える。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 266 「取組」は数多く行われているが、研究者に浸透していないのではないのでしょうか。これは研究者側の問題では無く、取組を企画した際に研究の本質(成果創出に時間を要する、基礎研究は直接社会的インパクトを生むものではない、など)を考慮せず立案してしまったことに起因しているように感じます。研究者の創造性を押さえて、社会にかかわること(社会実装)を強要する取組となっているのではないのでしょうか。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 267 近年、情報が一方になりがちなのパブリックアクセプタンスよりも、双方向のリスクコミュニケーションの重要性が叫ばれているが、我々研究者がそれに関与し、意識させられる機会はほぼ無い。それは研究者のコミュニケーションスキルの低さにもよっていて、信用されていないという面もある。取組むための機会を増やす前に、リスクコミュニケーションのポイントは方法論を研究者が理解する必要があると思われる。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 268 正しい定義でのイノベーションについて、研究分野でも理解が十分でない。一般市民の理解度はかなり低いと感じている。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 269 研究者は目の前の課題達成に追われているので、社会リテラシーを考える余裕は無いのでは？(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 270 研究成果の社会還元、研究者のリテラシー、研究倫理に対する取り組みが十分進められている(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 271 一昔前とは異なり、科学技術の社会実装に対する研究者(とくに若手研究者)の理解や意識は大幅に改善している。これをさらに推進するためには、若手研究者を安定して確保することが最低限、必要不可欠な対策である。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 272 多様な取り組みに直接に研究者がかかわることで、双方の理解は増すとと思われる。一方でそのような取り組みは、若手研究者の研究時間に影響し、研究開発速度が低下することが懸念されるし、すでに起こっている。システムとしてステークホルダーとのインターフェスを整備する必要がある。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 273 全体を見て長期的視野に立って進める(指摘・提言)できるシステムが弱くなっているように思われる。多様化の時代を乗り切るために何をすべきかという点で科学技術を見渡すシステムが必要。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 274 負の部分を取り上げて喜ぶ社会は、物質的に豊かでも幸福とは縁遠いものになる。夢は夢として、現実には現実としてその価値を共有できることが重要。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)

- 275 工学系研究者は一般的に対話力が低く、人間が苦手、対話的開発手法であるデザイン思考とか、多様なステークホルダーとの対話の場であるフューチャーセンター等にも興味がなく、30年前に受けた教育をベースに活動している。まずこれを変える必要あり。一方、人文社会系の研究者は社会や企業との接点が弱く、自己満足的な研究を良しとしている。年配者に付加的なトレーニングをさせると共に、若手には最初からトレーニングさせる事が重要。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 276 科学技術イノベーションの社会との関係進化と推進機能の強化に関しては、ある程度進んでいると感じる。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 277 欧米の科学技術は安全保障の観点で進んできた歴史がある。一方で戦後の日本は民生を中心に科学技術が発展してきた。日本の企業は企業内研究開発で事業を展開してきたことから、学の役割は優秀な人材を企業に送ることが主要な役割となっていた。産官学の役割を日本全体で議論し、旧来型でよいのかどうかしっかりとまとめるべきである。でなければ上記の設問はまったく意味をなさなくなる。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 278 社会の目を気にしすぎた結果のいびつな大学、研究機関のルールもあるように思う。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 279 わが国は地震、台風など災害が多く、インフラの設計基準見直しや新技術、新材料開発は不可欠ではないか、特に昔からダメージコントロールの発想を作りこむことが弱く、一度何かあると被害が大きなものとなってやしないか、社会システム、都市計画はむろんのこと、IoTを浸透させることにもダメージコントロールを盛り込んでいく必要があると思う。ここに費用対効果を求めるのは愚策である。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 280 我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際する官民が一体の取組は、十分に行われているところもあります。ただし、どうしても民間企業主導になってしまうので、官が主導できる体制の構築が必要だと思います。我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制については、日本学会会議や各種審議会、学会等が行う科学的な助言は専門的で、やや抽象的なところもあるため、現実的な政府には助言の真意が伝わりにくいと思います。政府と学会等の間に、助言の内容を分かりやすく伝えることと、具体的に何を行えばいいかについての助言できる機関があれば、有効に機能するのではないかと思います。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 281 安易なビブリオメトリクス利用や科研費ランキングが、基礎研究重視の方向を強化しており、政策的に社会との深化をうたっている。逆方向を向いている。そもそも研究成果の社会的効果よりも学術成果を重視する傾向が強く、国全体としてもう少し成果の社会的意義を重視する姿勢を明確にすることが必要。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 282 大学や公的機関からのプレスリリース件数の増大にみられるよう、社会への発信の活発化などにより、科学技術イノベーションの現場での交流は数年前とは比べられないほど社会の声が研究現場に届いている。一方、政策として発表される内容との乖離がある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 283 もっとオープンイノベーションの場を作っていくことが肝要だが、農水省ではその取組の端緒についたばかりである。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 284 科学技術イノベーションについての様々な意見や考えを、わかりやすく社会に伝えられる工夫、メディアやICTを活用する工夫がもっと必要であると思う。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 285 気候変動の対策技術の経済的評価をプロジェクトで行い、一定の成果を得たが、肝心の監督官庁の管理者には、その意義が伝わらず、毎年予算を削減された。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 286 こういった活動はとても重要と感じるが、その役割を果たすべきプロフェッショナルな人材が組織内に見当たらない。JSTやNEDOなどでコーディネーターを育成して研究機関に長期派遣する制度のようなものがあってもよいのでは。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 287 ■研究以外の作業(申請書類の作成、評価書の作成、経理処理、コンプライアンス研修、ガバナンス研修、リスクアセスメント研修、情報セキュリティ研修など)が多すぎて、社会との関係深化、リテラシー、文系分野との連携など、深いところまで考えている余裕がまったくない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 288 研究者と国民との対話は、各大学・公的研究機関における活動だけでなく、日本科学未来館等における展示を通じ、活発に行われていると感じます。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 289 自然科学の中では分野間の連携が増えてきているように思いますが、私の仕事の範囲において人文・社会科学との連携はまだできていません。興味はありますが、どのようにアプローチすればよいか分かりません。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 290 科学技術と人文社会を結び付ける人材の育成が成熟していない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 291 メディアの中で、研究を真に理解している人が少ないのには驚く。ノーベル賞など華々しいニュース性の高い話題には食いつくが、それこそ基礎研究には研究機関が働きかけてもなかなか対応してもらえない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 292 科学技術イノベーションのための成果が、まだ、数少ないためでもあるが、社会との関係深化や推進機能の強化は大きく遅れているように思う。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 293 研究者以外とのコミュニケーションをうまく取れない研究者が多いと思う。社会との関係深化のためには、そういった点を克服するためのプログラムがあっても良いのではないかと。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 294 私自身、ここ数年で研究成果の社会への還元を強く意識するようになり、例えばいい研究成果については積極的にプレスリリースを行うように取り組んでいます。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)

- 295 日本社会全体が基礎科学と応用科学(または科学と技術)の区別がつかないと感じる。基礎科学の研究者に直接「社会に何の役に立つのか」という質問をするのは社会全体のリテラシー低下だと考える。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 296 科学コミュニケーターを育成すべきであり,各省庁の科学技術部門には博士号取得者の採用を必須にすべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 297 ステークホルダー内においては,科学技術・イノベーションに関する国民サイドの関心や理解が進んでいない。まずは国民に科学技術・イノベーションの重要性を理解させたり関心を向けさせる取り組みが必要と考えられる。特に基礎教育,義務教育において科学技術・イノベーションへの関心を醸成させることが重要であろう。またそういった場面において,インタープリターとしての科学者・研究者も育成し,国民理解の底入れに役立たせることも重要と思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 298 研究と社会の関係深化という動きがあること自体,ほとんど知らなかった。社会も研究もますます複雑化する現在,このような取り組みは非常に重要で,個々の研究者もそのことを認識すべきだと思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 299 将来の為に研究者が学校教育にもっと関わるべきだと思う。市民参加フォーラムとかそういうのは興味のある人しか来ないので。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 300 近年になり,外部資金の取得額,特許申請数も評価基準として重要視されるようになっては来たが,やはり現状は変わらず論文数が評価基準として最も重要視されている。大学・公的研究機関における研究者の評価において,論文数が最も重要視される限り,社会リテラシーの向上は困難だと考える。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 301 難しい問題であるが,国の予算で研究を進める以上は,国民の税金から研究費を頂いていることに感謝できるような機会があるのは良いかも知れません。そこから,基礎研究などへ使用できる交付金などの予算もある程度配布されることの理解に繋がると幸いです。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 302 メディアからの取材を受ける中で,新鮮な疑問を投げかけられる場合が多かった。メディアも新しい物を追いかけており,新たな研究の種ができていくように思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 303 現在の職場でも社会との関係深化を重視し,それに沿った研究プロジェクトを行っているが,しがらみが増えて研究が自由に進められなくなったし,新しいテーマに挑戦できなくなった。これは研究の進展を阻害している。全分野一律に社会との関係深化を強制するのはなく,それが向いている分野と向いていない分野を分けて,科学政策を考えるべきである。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 304 ユーザーが主役として加わる学術コミュニティ,すなわち「ユーザー参加型研究」の場として,ニコニコ学会βが開催されている。ニコニコ学会βでは,専門家が情報提供や場作りやなどでユーザーを積極的に支援するモデルとして「共創型イノベーション」を推進してきた。今後もこのような共創による科学技術イノベーションをよりいっそう推進していきたいと考えている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 305 科学技術研究に関する情報発信をマスコミを通して積極的に行っていくことが重要と考える。研究者の存在,その個性,性質などが社会にもっと認知され,その存在の重要性が認識されることから始めるべきと思う。社会に認識されることで研究者自身が社会的責任を明確に意識し,ポジティブな方向に研究が進む分野も多いと考える。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 306 雑務が多すぎて,そのようなことを考える時間すらない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 307 研究者の社会リテラシーに関しては政策策定の段階から進めるべきのものであり,研究者の責にすべきではない。研究課題の策定において自然と含まれるように設定すべきである。ELSI面に関しては,それを行うための人文系研究者の人件費を含めることを必須にするような資金の設計も必要である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 308 意識の高まりは非常に感じられる。こうした意識の集約が今後の課題だろう。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 309 ・サイエンスアゴラなど社会との連携を深めつつあり,あり方を模索しつつ,今後内容が一層成熟していくことを期待したい。・経済産業省主導でグローバル・ネットワーク協議会が発足するなど,地域企業の海外展開を目的として制度が開始されており,今後の展開に期待している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 310 社会との関わり等は,時間のかかる内容で,急に改善するような内容ではないと思われる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 311 理系科目の教育を初等教育から高等教育までもっと時間とお金をかけて徹底的に行うべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 312 研究者と非研究者の対話について,資金的援助も充実しつつあり,好ましい方向性が見受けられる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 313 研究成果を社会に還元することは研究者の責務だというのは分かっているが,今の方法はただ単に研究者の負担を増やしているだけで,成果があるのか判断する手段がないのではないかと。あまり研究者に色々求めると研究の時間を減らし,本末転倒になる。例えば,知的財産の構築など研究者が社会に貢献する役割を固定して,それを持って社会的責務を果たすとした方が良いと思う。シンプルな構図にしたほうが実りが多いと思う。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 314 このような取り組みを過度に進めて研究者から研究時間を奪うべきではない。費用対効果という観点から妥協点を見つけるべきである。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)

- 315 人文・社会科学及び自然科学の連携は今後特に必要であり、交流を促進する場(交流を前提とした科研費、人文・社会科学及び自然科学の入り混じった研究所の創設など?)を作る必要があると考えます。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 316 今後,このような機会をどんどん増やしていくことが社会の成熟度を高めることになると思います。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 317 始まりつつあり,取り組みは行われていると思います。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 女性)
- 318 研究所や研究者と社会との連携は重要と考えますが,専門性が高い場合,実際にはなかなか困難であろうと思います。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 女性)
- 319 研究者に対し自分と社会とのかかわり方を問うような取り組みは,近年活発になってきたと感じる。ただし,そのような取り組みは若手に偏重しており,40代,50代以上の研究者は自分のあり方を確立してしまっており,何も変わっていないとも感じる。よりはっきり言うと,研究職として仕事をしている上で,40代,50代以上の研究者らが社会リテラシーを欠いていると感じる場面が,多々ある。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 女性)
- 320 ・殆どの外部広報活動は社会意識向上の動機に繋がるものの,本質的には十分でない。研究成果を客観的にオープンにした社会的価値評価を得ることで信頼と期待を確保しつつ,更なる支援展開につながる環境とすべき。・人文社会科学,経済,法務との早期連携はイノベーション創出の最適化にとって重要であり,現状では不足または取り組みが遅い。(公的研究機関,その他,男性)
- 321 日本のイノベーション取り組みで感じることは,グローバル視野が徹底的に足らず,またビジネスとの結びつきが弱いことであります。技術革新とは,テクノロジーをいかに社会システムとして世の中の人達が使うインフラにしていくかの議論であり,この分野がビジネスサイドも含めて弱いことで,俯瞰したグローバルにリーダーシップを発揮できるような取り組みにはなっていないと感じます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 322 多様性の確保とチャレンジを評価する方法が必要なのでは。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 323 専門家組織も含め,ほとんどが大企業のトップにより構成されている。海外の有識者なども入れたほうがグローバルなアイデアが生まれるのではないか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 324 問6-04,05では,オープンイノベーションプラットフォームの考え方が日本では歪である。大企業も最近CVCが設立ブームだがその活用方法が正しく理解されていない為にイノベーションに関しては世界から劣後している上に大企業の内部留保資金がイノベーションに活用されていない。知財にどう価値を付けていくかの方法も分かっていない。全体の仕組み作りは官僚統治が甚だしく,官民一体という概念を取り違えているのではないか。官僚統治下における制度設計では,「えりすぎり」を求める。イノベーションは「せんみつ」(千に3つ)の世界。チャレンジできる制度設計が必要。失敗する事をよしとしない制度ではイノベーションは生まれない。当たり前の理屈が当たり前でできない日本である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 325 私は,〇〇〇〇協会(〇〇)というアジア各国の66のサイエンスパークが参加している協会の会長を務めている。各国それぞれの発展段階,経済レベル,産業の形成レベルなどまちまちであり,また政治的なバリエーションもあり,日本が組むといっても容易ではないのが現実である。イノベーションを単なる発明や技術改良ととらえている人々には,民間レベルでも実施は可能であろうが,社会の価値観を変えるようなイノベーションは,しっかりと基礎研究をやらねば出てこないと思う。総合科学技術・イノベーション会議も,構成人員を多様な分野から出すべきであろう。あまりにも画一化している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 326 ・相対的には強化/推進されていると思うが,これも現在進行形であり,持続的かつ更なる強化を実現していく体制構築が必要だと認識している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 327 科学技術成果をイノベーションにつなげていくためには省庁間連携,産学官連携が不可欠だが,特に省庁間連携は掛け声はともかく実態的にはほとんど機能していない。特に国の特別会計事業と他の事業との連携に問題あり。イノベーションの実現に向けた取り組みには,イノベーションの進展に応じた臨機応変な政策投入が必要であり,このためには必要となる政策手段(予算,規制緩和等)の企画立案を一元的に管理することが必要。こうした観点からは,SIP型(内閣府が当該イノベーションプログラムの予算管理を一元的に実施する形)の事業を増大させるべき。各省が予算配分権を保持したままでの省庁連携は,国の組織体制が本質的に縦割りでことから(国の組織のあり方としては,問題の責任部署が常に明確となることが必要であり,この観点からは縦割りが悪いわけではない),本質的に機能しないことを認識すべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 328 イノベーション会議で議論されるテーマに対する官側の関与レベルを見直す必要がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 329 特定分野に絞らず,我が国が強みを持つ技術やシステムについては海外に対し,もっと積極的にPRをすべきだと思います。それから問6-07にあります,もっと科学的助言の仕組みや体制が機能すると良いと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 330 大学及び大学人の社会貢献活動が要求されていながら,そのものを評価するシステムはおろかそれをやれば時間的にも損をするシステムである。社会貢献をきちんと評価しそのことを様々な形で顕彰する必要がある。特に自然科学者が新しいことを一般国民に知らしめる活動をやらざる逆阻害することを行っているのは困ったことである。また,学術会議のシステムや活動が一般国民や政策立案者の役に立つ情報をきちんと出していない。また各種学会も社会にキチンと貢献しているか,正しい判断のできる情報を出しているかを第三者機関で検証するようにすべきだ。学会によってはこのような活動を全くやっていないものがあり,逆に阻害的に働いていることがある。これらについては米国のNAS(National Academy of Science)に見習うべきだ。今の学術会議も各種学会もこのような活動をやらねばならない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 331 どの支援体系も公共の益ではなく,企業等の益が優先され,ひいては省益等えなくても良い機関の益を重視する考え方が横行しているので,中小にまで回る仕組みができていく。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 332 研究社会は世間の常識、企業の常識とはかなりの隔たりがあり、この隔たりを近づけるのは容易ではないことを前提に、マネジメントを行ってほしい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 333 資金的には、かなり使われているが、それが既存の機関が癒着して無駄遣いしている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 334 例えば原子力開発にだけ、金が回り(敦賀原発など)、持続可能なエネルギー創出には冷たく、世界をリードすることが出来なくなっている。また、例えば災害救助技術において、1995.1.17阪神・淡路大震災以降21年が過ぎますが、何か救助技術が進みましたか。今年には熊本地震をはじめ各地・各国で毎日のようにM7以上の大地震が起きています。東京オリンピックが話題ですが、それまでに、いや開催最中に首都直下型地震が起きたら、どうなります。科学技術立国を歌うならば、災害医療技術・救助技術研究開発に全力で取り組む必要があると思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 335 本頁の質問に関わることだが、『多様なステークホルダー(研究者,国民,メディア等)が双方向で対話・協働することにより』とある中の”国民”の声の反映をどのように行えばよいか、疑問に思う。数十年前の”飢餓状態の酵母の活動を顕微鏡観察して成果としたい”と述べた研究に予算を割いてよい、割くべきだと判断できる一般の日本人は皆無だと思(もしかすると、経験の深い研究者・識者でも困難かも)。ステークホルダーの多様な声を無理なくまとめられる人材の選定こそ重要な要素と思考する。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 336 社会と科学技術の関係のCritical reviewをすべき専門家集団を育てるべき哲学系学科を文科省はつぶしながら、この問いかけをするのは、自己矛盾である。素人に近い人間が千人・万人集まっても意味のある議論はできない。人への遺伝子組み換えなどの特殊分野を除いて、研究の自由を制限する必要はない。内閣主導の御用学者・経営者による「科学的助言・イノベーション会議」により、特定テーマだけに予算が手当てされることにより、基礎科学のための科研費が増えないことが問題。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 337 科学技術イノベーションを支える社会にはなっていないし、推進機能を強化するにしてもそれらに関係する基盤が整っていない。例えば、我が国の大学にて、東南アジア各国の法律、経済、文化などを専門とする学科や学部およびそれらを専門とする学者も極めて少なく、イノベーションを期待する社会的ニーズといった背景の理解が的確にできない。この状況をまず変えないと前へ進まない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 338 会議はしていると思うが、決定して決められない。そこに大きな問題がある。議長に最終判断を委ねて、決定、作業に落とし込み、作業の是々非々を厳しくおこない、次に進めて行くようにすべき。人を判断に入れないで、プロジェクトをシビアに氷解するべき。でないと、みんなやらない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 339 科学技術イノベーションと社会との関係の深化については、革新的な科学技術やシーズを持つ大学・公的機関、ベンチャー、企業が融合してPOCや評価そして市場導入を行う仕組み・推進体制が構築されるべきかと思(います。一方で取り上げるシーズ等の選定する背景や動機については透明性を高めることが必要かと思(います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 340 イノベーションという意識が日本ではあまり社会に浸透していないのですが、そういう環境を思えばよく機能しているかもしれませんが。大学(医学)でのアジアでの臨床医教育(〇〇〇大学消化器内科)などは国の資金が出ているかどうかはわかりませんが素晴らしい成果と実感しています。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 341 国家戦略レベルから市民生活までの幅広い活動において、市民生活や地方中小企業への展開側の活動は見えにくいと思(います。少なくとも都道府県レベルの活動がもっと国民に知られ、関心を持たれるようにする必要があると思(います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 342 どうも、効率の悪い連携はあると思(える。いいレベルの処と、そうでないところもあるが 人材・要員不足でできていない面も多々あると思(える。予算面のことも効いているだろうと推量しているが。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 343 大学の特権意識や学閥意識が大きな障害となっている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 344 基礎科学の研究分野において、初期の段階において、社会との関りを重視しなくても良い分野もあると思(います。科学技術イノベーションの社会との関係進化と推進機能の強化を専門に行う役割の機関を設立すると良いと思(います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 345 研究開発テーマ助成に対する目利きが極めて少ないため助成金が有効に使われているとは、言い難い。その時々勇ましい話(実現できない)にすぐ乗る傾向が大である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 346 老若男女、科学技術イノベーションという認知度が低いと思(われる。メディアが報じたトピックを表面だけとらえて、分かった気になり議論することの何と多いことか。現状を議論し、将来展望を最悪のケースも想定し、むしろ聞かせたくないことも大々的に開示するくらいしないと意識改革は難しい。そういった番組を年1,2回でいいから大々的にやるべき。NHKががんばれ。そういった番組を年1回でいいから、中高生に強制的に見せるべき。ある程度の危機意識を持たせないと、親に甘やかされたぬるま湯環境がいつまでも続かないことを恐怖させないといけ(ない。はだしのゲンを見て戦争への恐怖感を刷り込むことには成功しているのだから、同じロジックだと思(われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 347 とりわけ、中小零細企業における科学技術イノベーションとの関係深化に対する推進機能が皆無に近い状態と感(じられる。もっと経営に直結する形でアプローチ出来れば、中小零細企業も積極的に推進できるのではないか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 348 短中期課題と長期課題、超長期課題を混在させずに分けて対応することが重要と考(える(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 349 CTO補佐官制度など、より積極的に民間の人材を活用して、日本全体の科学技術イノベーションの戦略立案や実施をすべきです。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)



- 350 総合科学技術・イノベーション会議を形式的な会議体ではなく、本質を議論する場となるようワーキンググループや専門部会の充実を図ることが必要と思料。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 351 弊社事業は化粧品・医薬部外品・医薬品・食品と複数のヘルスケア関連分野に関わります。食品・医薬品に関しては規制改革によるイノベーション実現の動きを実感しますが、化粧品・医薬部外品化粧品に関しては国際的な競争力のための規制改革の動きを感じません。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 352 世論に左右されやすい状況が気になります。最近の人文科学を軽視した国の教育政策が、将来の社会バランスを崩すのではないかと懸念されます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 353 AI技術の実用化やビッグデータとの関連では個人情報取り扱いの法整備など、民間のイノベーションを加速するための取り組みを期待している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 354 産・学・官の連携強化によるイノベーションに今後大いなる期待が高まっていく。オープンイノベーション志向を醸成していくことを関係機関に期待したい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 355 政策形成への助言、司令塔機能は非常に大事だと思いますが、状況を把握できていません。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 356 助成したものは途中段階では高く評価されたいも責任は取らない仕組みである限りあまり期待できないと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 357 いち企業人としては、全体の取り組み、成果が見えづらいと思います。それぞれの機能に対する取り組みは一生懸命実行されていると思いますが、それが有効かどうかが見えません。特に、推進機能構築には、全力で取り組むが、その成果をいつまでに、誰が判断できるのか？その指針は、時間的な要素も含めて何を明確にしていく必要があると思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 358 AIやIoT技術に関して日本は後れを取ってしまった。新しい製品やサービス、新ビジネス創出の面で世界をリードできるような研究環境、教育・人材育成、仕組み作り等の醸成が必要であると思う。イノベーションの観点から研究成果の社会的インパクトの客観的評価に関しては、論文中心の評価だけではなく、企業との共同研究・委託研究や獲得資金の量と言った面も見て行く必要があると思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 359 イノベーション人材の育成、今後重要となる科学技術の重点領域など強化の具体的な方向性をより明確に打ち出して実行する必要がある(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 360 「日本技術の世界展開」に関しては、各々の国のニーズの把握、技術のモディファイ、資金援助、決定のスピード等で他国(特に中国)に大きく水をあけられていると感じる。抜本的な仕組変革や将来構想の構築が必要と感じる。また「自然科学の飛躍的な発展」は「倫理」とのバランスが必要となってくる。遺伝子組換,iPS細胞利用,AIの進化等に伴う技術者の倫理観の醸成とリスク管理・対応に関しても強化する必要があると感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 361 学が向いている方向が政府機関であり、産や国の方向を向いていない。もっと、この点を強化すべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 362 イノベーション・エコシステムの必要性を謳っているが、日本の産学官だけでエコシステム構築を図ろうとしている。少子高齢化で縮小している日本市場しか眼中にない「日本ムラシステム」。世界企業なら、社外取締役役に他国の人材を登用するように、国のイノベーション会議に海外の有識者を入れたり、大学発ベンチャー海外の投資家が投資できる環境を創るなど、世界市場を視野に、グローバル・イノベーション・エコシステムに参入する施策が必要。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 363 基礎技術の研究は営利を目的とする企業の支援はなかなか得られませんが、日本がオンリーワンの技術をより多く得ようとする、この事の推進強化も必要。産官協力してこれを進めるべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 364 日本では、新しいこと＝悪いこと＝誰かがだまされる と考える風潮が大きすぎる。自由化＝国民が自分で考える＝責任も自由＝何をなすべきか：情報の伝達を義務付け、責任は自己責任、情報の足りない部分を、国が指導する。国が公開する。いい加減な仕組みや製品が、自然淘汰されるスピードを高めるような、制度を作り上げることが必要。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 365 インターンシップ、相互人材交流などを通じた、課題、問題意識に関する共感がまずは必要(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 366 確かに上記「推進機能」を担う公的(?)機関が多く設立されているが、独立性やそもそも人選そのものに疑問がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 367 受け取る側、議員、政治家、さらには一般の市民の科学技術、サイエンスに関するリテラシーをもっと高めないと、関係深化や推進強化が行えないように感じる。いくらプッシュ側が頑張っても、受け取る側からのプルが無ければ有効に機能しがたいように思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 368 ・科学者の倫理観がより重要になってきているが、大学や企業でも十分な取り組みがなされているとは言い難い状況である。・イノベーションは科学や技術だけで起こせるものではなく、社会とのかかわり合いの中で実現されるものであり、科学者がもっと科学者以外のステークホルダーとの関係を強化しなければ、社会課題の革新的解決にはつながらない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 369 文科省と大学との対話は十分に行われているかもしれないが、政府(文科省,経産省他)と学会や民間団体,NPOなどとの対話をもっと増やすのがよいのではないだろうか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 370 科学技術イノベーションの社会を構築するという事を国から地方までよく聞こえたのに、実際の対策が少ないと弱い感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
- 371 研究成果が社会に還元される仕組みが出来ていないので(政府だけではなく社会としての民間での受け入れ態勢も含めて)特区であつたり,いろいろな仕組みの枠を更に活用できるようにすべきだと思います。政府として各種会議(地域の声を聞いて頂く場や,有識者が集まって開かれる場)が沢山開いて頂いていますが,これらが点として動いているように感じています。この点が更に線になり面となって動いていく事で,日本の技術や研究成果がグローバルインフラとして社会還元できる仕組みとなると思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
- 372 基礎研究では仕方のないことではあるが,実社会のニーズに関して,正確に状況を把握して研究に入る学者は,ごく少数である。日本の大学では,研究者の評価は「論文の数」だけであつて,その内容ではない。また,研究成果がどれほど社会の役に立ったかは,一切考慮されない。企業のプロジェクトのように,「カスタマーサティスファクション」を取るという姿勢を持ってもらいたい。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
- 373 SIPやImPACTなど,CSTIIは新しい仕組みに取り組んでいるが,プレーヤーがその機能を十分使い切れていない。特に国研の研究者は,技術のビジネス展開という意味ではきわめて貧弱な研究しか持ち合わせていない。基礎研究・応用研究,技術開発のステージでの役割分担ができていない。研究開発ステージを上流から市場まで,全体を見渡せる人材の不足か?分野による温度差も大きい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 374 現状仕組みとしてはできてきているが,企業の最前線メンバの参加が極めて少ないことが問題と考える。企業は派遣するメンバの所属にかかわらず,十二分に事業の最前線の状況を官,学に伝えることができる状態にして送り込むべきである。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 375 開発技術の社会実装に際して,技術の実証だけでなく種々の社会的課題の解決に向けて柔軟に対応,検証できる制度や仕組みのさらなる充実を望む。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 376 人文系と科学系の研究者の議論は機会が少なく,あつても平行線になることが多いと思われ。特にエネルギー分野ではその傾向が強いと思われ,学際的な分野の充実が望まれます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 377 関係の深化や推進機構の強化を行うことは異論はないが,そのために研究者の負担が増え,研究活動に支障がきたすようでは本末転倒であるとする。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 378 日本国民全体の科学技術に対するリテラシーが低いと認識している。例えば,某地方自治体と連携しているが,その自治体は非常に縦割りで,大学などが新しい技術(シーズ)を提示しても,自分たちが抱えている問題(ニーズ)に対する解決に結びつけようとする意識を持っている担当官がいることはほぼ皆無である。例えば,大学などが「外国人向け(多言語)」「観光」というキーワードを出せば,在任外国人の生活担当と観光振興担当がそれぞれの状況を考えるだけで,外国人向け観光という発想を持つ担当官が地方自治体には皆無であると,これまでの経験では,想像できる。中央官庁が省庁の枠を超えての取り組みを(難しい中)やろうとしているが,地方自治体の課の枠は中央官庁のそれと比較して非常に高い。ここを解決する施策を別に打たなければ,公の予算による新技術の社会展開は不可能である,と考えている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 379 提言などは至極まっとうで筋が通っているが,それを具体的施策に落とすところが弱いと思う。さらに,文科系の方には倫理法制度でもっと頑張って頂きたいが,実学に関係することを極度に嫌われる先生方も多い。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 380 問4-19への回答と重複するが,イノベーションは新技術が生むとは限らない。むしろ,既存技術を生かす規制緩和や制度充実の方がより早くより大きな社会的イノベーションをもたらす可能性が大きい。社会的な利害調整の手間を嫌った技術偏重では,成し遂げられるイノベーションはごく限られたものになりかねない。大学・公的研究機関と企業間の意思疎通は人材の相互交通で促進するべきだが,依然不十分だ。政府が先導した過去の大型プロジェクトは社会実装への意識が低かった。プロジェクトは単なる研究開発にとどまらなければならない。社会実装のためには経済性や社会的・法的・倫理的な課題の洗い出し,対策立案までをプロジェクトに含むべきだ。当然,人文,社会科学者らの活用もプロジェクトの一環でなければならぬ。その検討結果次第では,開発目標の転換や研究開発の縮小・中断も含むプロジェクトマネジメントに結びつけなければ,「鳴り物入りのプロジェクトは終わったが,すぐに成果は社会にでなかった」という従来の失敗を繰り返すことになる。米国ゲノム研究での「ELSI」のように,研究開発と社会実装の課題検討を同時に進める制度は,司令塔が先導しなければ実現しない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 381 科学技術の重要性についての発言は政治の各面で行われているが,実際の進展,海外との競争力などを見ると,もっとそれを現実に反映していく必要があると考える。また,政策判断でも,原発やワクチン問題のように,根拠を重んじた合理性よりも感情を重視してしまうことが多く,現実の改善を阻害していることが多いと思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 382 ・日本の政治の仕組み自体が科学の活用を阻んでいるので,その点の改善が必要だ。例えば米国なら議会にさまざまな科学者を呼んで意見を聞き,政策を議論する。ところが日本では役人が選んだ学者が審議会に発言し,事務局が報告をまとめるから,意見の多様性は反映されないし,役人にとって都合の悪い意見は排除される。・日本学術会議は議論を元にさまざまな意見を出しているが,政策の議論に使われないのは残念だ。総合科学技術会議には,自らの政策を検証し評価し改善するというPDCAサイクルがないので,政策に進歩がない。その時々流行に乗って政策を飾り立て,金を垂れ流しているだけの存在であり,解体的出直しが必要だ。・ビジネス創出や海外展開での「官民一体」に違和感を覚える。このグローバル化の時代に,政府が一体的に関与するというのは,大学の入学式に保護者が付き添うようなものだろう。ここにも日本の企業家精神の衰退を強く感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 383 国内外問わず,連携は必要であるが,そこは,相互理解と言うよりも相互利用の関係にあることをイマイチ認識できていないと思う。特に,国外を相手にする場合,基本的に,日本人は,日本の国益に適ったことを意識すべきであるにもかかわらず,受け手である外国側は,両手放しに,日本を受け入れられていると錯覚していることが多い。特に,技術情報は簡単に模倣されてしまうことを,関係者はいまいちど肝に銘じるべきであり,国外の相手は,相手の国の国益を優先する,すなわち,日本がどうなろうと関係無い,と言う前提にすることを認識すべきである。また,国内では,成功者ばかりの有識者会議だけでは不十分と思う。そこには,若返りも含まれるが,ポピュリズム的に何の経験も無い大言壮語は排除する必要があると思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

- 384 省庁毎に縦割りの役割分担になっていることから、社会課題と科学技術のギャップを埋めるための推進者・リーダーシップが不明確になっていると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 385 文系理系の分類を、社会課題との関係をもとに見直し、再編しても良いかもしれませんが(既に実施している大学もあります)。基礎研究応用研究の分類も同様で、リセットしても良いかもしれませんが。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 386 政策作成への提言は、広く求めるべきであり、特定の組織や人物に偏るべきではないと思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 387 科学技術政策のありかたについては、様々な考えがある中で、意思決定のプロセスが必ずしも明確ではない。いずれの選択肢をとるにせよ、将来、振り返って分析が可能な、記録を残すこと、判断の根拠を明確しておくことは重要(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 388 研究者の社会リテラシーに関しては、学術領域によって千差万別である。医学領域では多くの研究者が社会リテラシーを保有している一方、理学領域の研究者では欠落しているケースが散見される。現在、サイバー空間の活用に関して大きな技術革新とイノベーションが起ころうとしており、理学や工学の研究者には高い社会リテラシーが求められる。日本学術会議には、学術的シンクタンク機能のほか、社会リテラシー定着の推進力も期待したい。イノベーションには、科学技術だけでなく産業的視点での社会適応性も必須であることから、政府に対しては科学的助言だけでなく、産業的視点からの助言も重要である。近年の審議会は産学官からの人材で構成されるケースが多く、その点に関しては評価できる。CSTIの司令塔としての機能強化に関しては、SIPやImPACTなどの研究開発プログラムの設置や第5期科学技術基本計画の作成を通して、ある程度図られたと認識する。これらのプログラムを継続・発展させるとともに、基本計画のKPI達成状況をモニタリングして必要な施策を取ることで、さらにCSTIの機能を強化する必要がある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 389 ・たとえば、最先端科学分野でも人文・社会科学および自然科学の連携による取組は重要である。科学分野のプロジェクト推進&評価に人文・社会科学の人材登用を更に考慮すべきであろう。総合科学技術・イノベーション会議は以前のようにライフサイエンス分野も含めて総合的に審議すべきである。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 390 社会実装とは一見魅力的な言葉であるが、それはどの程度できれば「実装できた」とみなしうるのか。この言葉の定義や効果についての議論が薄く、単に言葉を利用しているだけに感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 391 エネルギーに関するグローバルなニーズとしては、化石燃料の限界(資源量,燃焼によるCO2排出や汚染),原子力の問題(使用済み核燃料の廃棄ができないこと,放射性物質の拡散による汚染)から、圧倒的に再生可能エネルギーの重要性が高い。しかし日本の政策は原子力偏重で再生可能エネルギーには資金・制度ともに不十分な状態が未だに続いている。真にイノベーションを起こすためには既存の枠組みを壊すことが必要だが、日本は既得権益の維持のためにイノベーションに背中を向ける状態が続いている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 392 個別の技術革新におけるイノベーション手法と、社会変革,産業推進における政策としてのイノベーションとは立ち位置が違うので、考え方も変えて議論する必要があるのではないかとと思われる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 393 SIPなどの取り組みが行われているが、結局、各省庁ごとの予算配分になって知っているような印象を受けてしまう。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 394 最先端技術にフォーカスされており、その基盤となる材料分野などへの観点が不足していると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 395 こういったヒアリングを行い、多様な意見をいったん集めた上で、大事なことは、中途半端につまみ食いするのではなく、どこに注力するかか意思を入れることだと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 396 まずは研究の現場力が著しく低下していることを再認識すべきであると思う。社会価値創出に関しては、ファシリテータ不足であることも否めない。ロボット分野での〇〇先生のような取り組みや同先生のメッセージを真摯に受け止める必要があると思う。そろそろ、江戸幕府から続く朱子学に依存した官僚主義を脱出すべき時期にあると思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 397 取り組み自体は行われていることを認識していますが、民間企業の立場からはまだ十分に効果が出ているとは認識できておりません。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 398 6パートの中で社会との関わりが最も弱いと感じています。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 399 いわゆる会議などは十分にあると思う。むしろプロセスとしての見直し及びアクションが十分伴っていないのではないかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 400 ・イノベーションは、世の中を変えたいという個人の意志が源泉と思う。イノベーションの定義は様々であるが、その発想には、既定路線の延長上には無く、誰もが推察できる論理性よりも、個人の経験と知見から醸成された直感に従う側面がある。外側からの判断としては、わかり難い部分は否めない。しかし歴史的に見てもそのようななかから斬新なイノベーションが生まれたのも事実であるため、もし行政が陰ながら後押ししているのであれば、その支援のアリザズムをもっと外部に視える化し、個人によるリスク低減とチャレンジを推奨する意味での発信を行うと良い。・官民が一体となった取り組みは、手続き・継続管理の面倒さ・複雑さを排除し、イノベーションにすぐに取り組みできるようにすること、プロジェクト遂行時のキャッシュフローとイノベーションポートフォリオ(スタートアップコスト,市場投入コスト,量産,サポートコストと各時期のタイムラインの管理と修正,撤退の判断閾値,成果と成長のための次のアクション)の状況を理解でき、推進できるリーダーシップが機能できるようにしたい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 401 当該テーマについての予算措置的的確性確保のために、省庁で企画した内容を理解できる政治背景が充実するか、または理解しやすい体系が国民に開示され、大きな支持のもと意思決定されることが必要かと感じます(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

- 402 国際社会との関係深化およびイノベーション推進を考えた場合、諸外国との利益還元を含めたグローバルな連携枠組みの策定とそのゴールの共有が重要かと考えております。例として、エネルギー資源や食糧については技術開発自体は推進され国際的にインパクトのある研究成果も出ていますが、日本が製造国(産出国)になる可能性は低く、実用化に際して流通や利益還元の課題がバリエーションになる可能性があるかと認識しております。各企業(特に製造業)でも同じ課題があり、科学研究のグローバルな実用化に向けて、包括的な戦略を策定するプロデューサーのような人材・組織の育成や編成に取り組む企業が昨今多いと考えております。産・学・官の連携で構成される同様の機能を有する一元化した仕組みがあれば、活用したいと思っております。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 403 事務局機能にかかっているのではないのでしょうか。(民間企業等、部長・教授等クラス、女性)
- 404 グローバルなニーズに答えるための研究をするのであれば、まずは各地域の真の問題点や悩みをくみ取り、それを一般にも公開することが重要だと思います。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 405 そんなに短期間でできることではないと思います。ですので、政権が代わって大きく変化することがないように仕組が必要かと思えます。科学技術の進歩が、格差をより助長することもあり得ますし、国内ではなく、海外のイノベーションが日本へ影響することも考えられます。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 406 基本計画は重要且つ軸となすものではあるが、多様性が欠落し結果として新しい価値が生み出されにくい状況を生み出していることはないか？(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 407 問6-03は、その重要性が言われ始めて久しく、サイエンスアゴラなど行われているが、ごく一部の人に限られた取組になっており、政策形成等への影響力は大きくない状態にとどまっている。官民連携による海外展開は、現状程度でよいのではと思う(韓国などに行うのは、やり過ぎな気がする)。インクルーシブ・イノベーションは聞いたことがない。途上国からの留学生の受入程度しか行われている様子が思い浮かばない。基本計画の推進のため、総合科学技術・イノベーション会議は尽力しているが、「必要な資源の確保や適切な資金配分等を行う」権限は有していない(重点施策の指定や研究評価を通じて「必要な資源の確保や適切な資金配分等」を「促す」ところまで、この設問は誤解を招くかもしれない)。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 408 もし受け入れてくれるのなら話ですが、〇〇〇〇や1000人規模リストラを発表した〇〇〇などへ大学人を派遣して、実情をつぶさに見るのが良いのでは。(民間企業等、その他、男性)
- 409 科学技術イノベーションは科学研究の結果であると思います。研究成果をイノベーションに結び付けるのは研究者の役割なのででしょうか。研究成果がイノベーションに至る道筋にはいくつかのステップがあると思います。そのステップごとに研究者自身が関与することは難しいので、そこにも人材が必要だと思います。(民間企業等、その他、男性)
- 410 科学技術と社会を結ぶ取り組みは盛んになってきているが、科学者と市民の議論がなかなかかみ合っていないと感じる。(民間企業等、その他、男性)
- 411 東日本大震災もあり、自然災害に関する研究は海外展開がされつつある。ただの研究ではなく、防災・減災に繋がるものになることを期待したい。(民間企業等、その他、男性)
- 412 大学の活用として、科学技術と人文科学の連携したビジョンが有効だと思います。意匠的なデザインだけでなく行動のデザインや感性を取り込んだデザインなど日本人の文化が切る領域でもあります。このようなアプローチが世界で求められる日本の役割だと思います。(民間企業等、その他、男性)
- 413 社会の発展に科学技術イノベーションが必要であることは認識されています。残念ながら日本においてイノベーションを支える土壌が育っておらず、育成すべき学生がさらに内向きに意識を後退させています。失敗を受け入れてチャレンジすることを受容することがイノベーションの推進につながると思います。失敗したプロジェクトがないような世の中では、真に新しいものは生まれにくいのでしょうか。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 414 我が国ではイノベーションが技術改革と理解されており、科学政策にもそれが色濃く反映されている。社会改革や人類の未来に対するパラダイムシフトをイノベーションと捉え、広範な専門の人が寄与できる仕組みを工夫しないと、政策決定者と研究者との乖離がますます進むのではないかと。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 415 イノベーションが「技術革新」と(誤って)訳されてしまう状況が早期に改められて欲しい。そうでないと、「技術さえ伸ばせばイノベーションに繋がる」という誤った認識から抜け出せないままになってしまう。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 416 科学技術の基本は世界基準と考えるべきであるが、科学技術の社会への展開は、その社会つまり国ごと、地域ごとに異なると考えられる。したがって、科学技術のイノベーションも基本・基盤技術においては、グローバルスタンダードで課題設定されるべきであるが、社会への展開や応用におけるイノベーションは、我が国の特性、特徴を生かした推進とその評価を行うべきである。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 417 これまでは科学技術政策はいわゆる「理系」の話という扱いでしたが、「文系」の寄与の必要性が最近認識されはじめ、一部の先進的な大学等では文系も含めた科学技術イノベーションの取組みが出てきたことは、科学技術イノベーション活動が高度化してきているということにより兆しを感じています。大学等の研究者は研究原資を科研費等の競争的資金で賄う必要があり、科研費等が求めている社会へのかかわりのある研究という誘導に沿って、社会の問題解決型の研究開発を意識する意識向上は進んでいると思っております(よいことです)。しかし、現状をよりしっかりと見つめてみると、提案書の作成が上手になっただけで研究内容は以前とまったく変わらないというものも少なくないのだと思います。研究者は選ばれている方々だけが行うべきものかと思っており、その意味では研究者の数が多すぎて、数が多い分だけ広く薄く研究費を配布せざるを得ないという状況なのかと思っております。研究費の予算配分をもっとメリハリをつけていくことで社会に役立つ研究が加速するのだと思うので、現状よりもさらにメリハリのある研究予算配分が必要だと考えています。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)

---

「科学技術イノベーション」という言葉は、一般の国民生活からすると、抽象的であるため少々縁遠い存在と思われてしまうのではない  
418 か。具体的なところで、「例えば……」と科学技術イノベーションが製品等に活かされている生活の場面等を訴求した上で、関係深化を  
図っていくべきではないだろうか。(民間企業等,その他,男性)